地質学雑誌　第114巻　第5号（通巻1352号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成20年5月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.11 No.5 May 2008

地質學雜誌第壹號

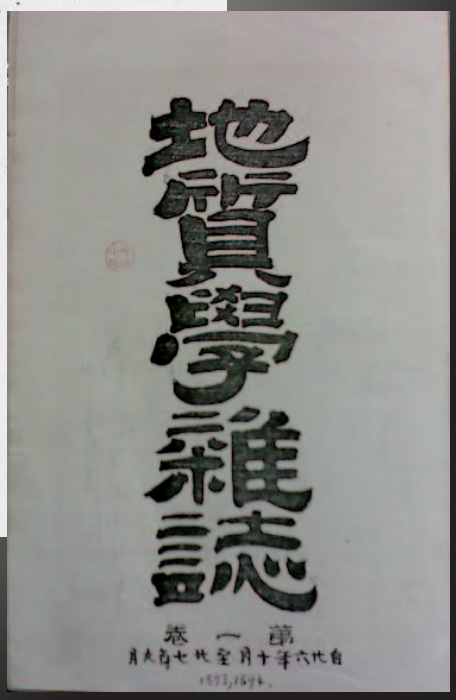
地質學雜誌發行の趣旨

地球上の現象は何ぞ其變化の頻繁にして端倪すへからざるの甚しきや。試みに杖を海岸に曳かば、彼の澎湃として岸を撲つの銀濤か年々幾尺の陸地を減削するを見ん、少しく眼を轉せば、同一の波浪か岸邊に向ひ、砂礫を運び泥土を沈澱し、多少陸地の面積を增加するを見ん。同一の波浪にして或は陸地の面積を減殺し、或は之を增加す、奇にあらずして何ぞや。忽ちにして爆然破裂し、家屋を火にし田野を灰にし、數千百の人命を擧げて、悉く之を黑烟一團の下に委するは、是豈に火山の破裂にあらずや。一朝の際に幾多の村落を埋め、幾百の家屋を沒し、幾千の生靈を殺し、幾萬の蒼生を傷かしむるは、是れ豈に地震にあらずや。此の地震と火山破裂とは、深山大澤擇ぶ所無く、高低險夷甄つ所無く、地球上至る所に其外觀の變化を來すものなり。嗚呼地球上の現象は何ぞ其變化の頻繁にして端倪すへからざるの甚しきや。此の如き糾紛錯雜の變化ありして一定の規律を發見し、此の如き森羅萬象を研究するは地質學者の自ら任ずる所にして、要するに地質學は地球の發育を研究するの學科なり。果して然らば地球上に住居する吾人々類にして多少地質學の智識なくして可ならんや、地質學は決して一種專門學者の專有物とすへきものにあらざるなり。

地質學雜誌發行の趣旨

（一）

（地質学雜誌第一巻一号　巻頭より）



日本地質学会第115年学術大会（秋田）予告

会期　2008年9月20日（土）～22日（月）

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

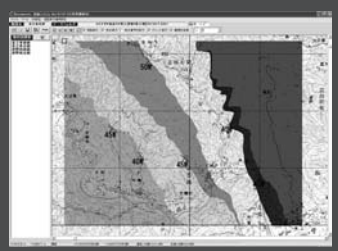
販売価格 ¥49,800（税込）

※ 写真は実物大です

電源：単3アルカリ乾電池2本　駆動時間：約20時間連続使用可能　外形寸法：約142×69×26mm

GeoClinoの機能

- ◆ 地層面に当てるだけで走向と傾斜を同時に測定
- ◆ 線構造に当てるだけで線構造を簡単に測定
- ◆ 測定した走向/傾斜は最大999個までメモリ保存
- ◆ 偏角補正機能（偏角を任意で設定し、偏角補正後の値を表示）
- ◆ 耐水機能完備
- ◆ 簡易方位計機能
- ◆ 便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属（※ Windows用のソフトウェア）



GeoAssistの機能

- ・GeoClinoから計測データを収録
- ・収録データを地図上に偏角補正して記号表示
- ・日時付GPSデータがあれば、自動地点登録が可能
- ・走向/傾斜データから、簡易地質図をすばやく作成

【走向/傾斜の測定風景1】

【走向/傾斜の測定風景2】

【線構造の測定風景】

さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

● **GeoClino GPS搭載版（GeoClino-G）**　税込価格 82,000円

GPS機能を搭載した「GeoClino-G」は、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

GSI ジーエスアイ株式会社

〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F

TEL: 029-302-5238　FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから

http://www.gsinet.co.jp

日本地質学会第115年学術大会（秋田）予告

地球の鼓動とその恵み―地質学から迫る人と地球の未来―

2008年９月20日（土)～22日（月）
会場：秋田大学手形キャンパス（秋田市手形学園町1-1）ほか

2008年日本地質学会学術大会は，「地球の鼓動とその恵み―地質学から迫る人と地球の未来―」をキャッチフレーズに，秋田大学を中心に東北支部の会員にご協力をいただき開催いたします．例年のとおり一般発表のほか，シンポジウム，見学旅行，普及行事として地質情報展，市民講演会などの催しが企画されています．一般発表は，各専門部会を中心に提案された22件の定番セッションと８件のトピック・セッションが準備されています．また今年も小・中・高校生徒「地学研究」発表会の展示発表がポスター会場で行われます．さらに，本大会と同時に開催される日本鉱物科学会とは，一部のセッションと懇親会を共催することが決まっているほか，地質学会に参加登録していれば，日本鉱物科学会のセッションも聴講できます．

今大会での各種の申込および費用の振込み先と方法は，前回大会と同様，クレジットカードによる支払いが可能です．発表関係以外の申込と費用振込の取扱いを近畿日本ツーリスト（株）秋田支店に依頼しました．発表についても昨年同様，web（インターネット）上での申込を受付けます．なお，大会準備がスムーズに運ぶよう，締切日の厳守をお願いいたします．

秋田大会に関する最新情報は，学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）の「2008年秋田大会HP」に掲載されています．

１．日　　程

９月19日（金)～21日（日）：地質情報展
９月20日（土）：シンポジウム，一般発表（口頭，ポスター），表彰式・記念講演会，懇親会，関連普及行事・市民講演会
９月21日（日）：シンポジウム，一般発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会，就職支援プログラム，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会
９月22日（月）：シンポジウム，一般発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会
９月23日（火)～24日（水）：見学旅行

２．会　　場

一般発表，シンポジウム，表彰式・記念講演会，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会：秋田大学手形キャンパス，（秋田市手形学園町１－１）
市民講演会：秋田大学手形キャンパス教育文化学部３号館大講義室（3-145）（秋田市手形学園町１－１）
地質情報展：秋田市民交流プラザ「アルヴェ１階　きらめき広場」（秋田駅東口に隣接）

なお，秋田大学手形キャンパスの施設位置図は，秋田大学のホームページhttp://www.akita-u.ac.jp/honbu/09access/0901.htmlを参照して下さい．

秋田大学手形キャンパスまでの公共交通機関は以下の通りです（詳しくは，秋田大学のホームページhttp://www.akita-u.ac.jp/honbu/09access/0901.html参照）．

＜徒歩の場合＞
JR秋田駅東口から手形キャンパスまで徒歩約20分．

＜バス利用の場合＞
秋田駅西口バス乗場４番線　大学病院行　乗車約10分～秋田大学前下車．

＊大学構内の駐車場は学会用には確保できません．年会へは公共交通機関を利用して下さい．

３．学会各賞表彰式・記念講演

日時：９月20日（土）15：30～17：30
会場：秋田大学手形キャンパス教育文化学部3号館大講義室（3-145）

４．普及行事

(1) 地質情報展2008あきた－発見・体験！地球からのおくりもの－

日時：９月19日（金)～21日（日）９：00～17：00（入場無料）
会場：秋田市民交流プラザ「ALVE（アルヴェ）」１階「きらめき広場」
主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター，日本地質学会，秋田市教育委員会・秋田大学工学資源学部附属環境資源学研究センター
展示内容：地質調査総合センターが有する日本全国の各種地質情報の中から，特に秋田県に関する様々な研究成果を，展示パネルや映像を使って紹介するとともに，小さなお子さんにも楽しく地学を学んでもらうために体験学習コーナーを用意しています．
問い合わせ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター
吉田朋弘・兼子紗知　TEL：029-861-3754　e-mail：g08akita@m.aist.go.jp

(2) 市民講演会「大地の成り立ちと人びとの生活・歴史―男鹿半島・大潟村・豊川油田をジオパークに」

日時：９月20日（土）13：00～15：00（入場無料）
会場：秋田大学手形キャンパス教育文化学部３号館大講義室（3-145）
秋田大会実行委員会・ジオパーク支援委員会　共催

白石建雄*（秋田大学工学資源学部, shiraishi@keigo.mine.akita-u.ac.jp）・佃　栄吉（日本地質学会副会長）・薄井伯征（大潟村干拓博物館）佐々木詔雄（三井石油開発（株））佐々木榮一（石油資源開発（株））

日本地質学会はジオパーク設立推進委員会を設置し，「地質遺産の保全とその教育・普及・観光への利用が地域の振興と活性化につながる」という理念に基づき，適切に地質遺産が保全・活用されるよう，各方面に働きかけています．本講演会では昨年に引き続き，「ジオパーク」に関連して，男鹿半島―八郎潟地域の多彩な地形・地質・産業遺産の活用可能性を探ります．さらに，「地下なる鉱脈無限の宝庫」と唄われかつて活況を呈していた秋田の鉱山業にも光をあて，日本の近代化を支えた鉱山関連産業の遺産を保存・活用していく活動を紹介し，その意義について広く市民や会員とともに考えていきます（※講演の一般公募はありません）．

(3) 小さなEarth Scientistのつどい～第６回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．秋田大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．秋田県内，また東北地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

なお，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」を授与いたします．

下記の要領にて参加校を募集します．

１）日時　　2008年９月21日（日）9：00～15：00

２）場所　　日本地質学会年会ポスター会場（秋田大学）

３）後援　　秋田県教育委員会・秋田市教育委員会（予定）

４）参加対象

・小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表

・小，中，高校の授業における研究成果の発表

・活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）

５）**申込締切　　2008年７月22日（火）**，下記，日本地質学会　地学教育委員会あてお申し込みください．

６）発表形式　　ポスター発表（展示パネルは幅90cm×高さ180cm程度）

パネルのほかに標本等を展示される場合には，パネルの前に机を用意します．参加申込書にその旨を記載してください．その場合は展示パネルの下側が隠れる事をご了承ください．発表者は決められた時間（および随時）パネルの前に待機し説明をしていただきます．なお，遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は，発表ポスターのみをお送りいただいても結構です．

発表の具体的な準備については，申込後に各校あてご連絡いたします．

７）参加費　　無料（参加者・引率者とも），開催中の研究者の発表，講演も聴くことができます．

８）派遣依頼　　参加者・引率者については学校長宛，日本地質学会より派遣依頼状を出します．

９）問い合わせ・申込先：参加申込は，別紙書式をFAXしてください．E-mailでも結構です．

日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６Ｆ

TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156　e-mail：main@geosociety.jp

５．企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集＜申込締切　８月８日（金），実行委員会扱い＞

地質関係機関，企業の活躍を地質学会会員に紹介するためのパネル・展示物の展示会場を設置いたします．会社紹介，研究紹介など内容は自由に構成していただき，多くの企業，機関，団体がご参加下さるようお待ちしています．展示パネルは幅90cm×高さ180cmを単位とし，出展費は１単位あたり１万円，複数単位も可能です．ブースの場合は，間口４ｍ×奥行２ｍを単位として，１ブースあたり５万円をいただきます．会場設備の都合上，**電源を必要とする機器を持ち込みされる場合には，８月８日（金）迄に展示会場係にご相談下さい．**この他色々なバリエーションについてもご相談に応じます．なお，本大会への協賛企業・日本地質学会賛助会員は出展料が無料です．

参加・展示の申込は，８月８日（金）までに下記へ電話，FAX，e-mailいずれかでお願いします．

〒010-8502　秋田市手形学園町1－1　秋田大学工学資源学部地球資源学科

出展申込先：2008年秋田大会実行委員会パネル・展示会場係，山元正継（TEL 018-889-2375，FAX 018-837-0401，e-mail：yamamoto@galena.mine.akita-u.ac.jp）

６．シンポジウムについて＜演題および原稿締切　オンライン：7月10日（木）17：00，郵送：７月７日（月）必着，行事委員会扱い＞

下記８件のシンポジウムを開催します．９月20日～22日の３日間（いずれも午前），各日２-３件ずつ行いますが，原則として一般公募はありません（今回は２件で一般公募があります）．**シンポジウムの講演者には，一般講演の一人１件の制約は及びませんので，別途一般講演を申し込むことは差し支えありません．また，本年よりシンポジウムにおいて，世話人は，会員・非会員を問わず招待講演を依頼することができます．また，非会員の招待講演者に限り参加登録費は免除となります．**一般公募の採択・不採択は，コンビーナによって決定されます．講演要旨原稿は，一般講演と同じ分量ですので，（４）ページの７項（５）を参照して原稿の作成をお願いします．やむを得ず郵送で講演要旨を送る場合は，一般講演の申込フォームをご利用下さい．「シンポジウム」と書き添えた上，必要事項を記入し，保証書・同意書とともに７月７日必着で行事委員会宛にお送り下さい．

◯シンポジウム（８件）

１．地震・津波堆積物研究の最先端と防災への貢献

Frontier of seismic and tsunami deposits and contribution to the disaster prevention

後藤和久（東北大；kgoto@tsunami2.civil.tohoku.ac.jp）・藤原　治（産総研）・藤野滋弘（産総研）
　地震・津波堆積物研究は，地質学に留まらず，海岸工学や地形学などでも行われている学際分野である．本シンポジウムは，各分野の最先端の研究発表を行い，地震・津波堆積物研究の新たな展開を模索するとともに，どのように防災に生かせば良いかを議論する．

２．新生代後期における北極海-北太平洋／北大西洋間の流通と古海洋環境変動
Late Cenozoic paleoceanography between north Pacific-Arctic-north Atlantic Ocean
佐藤時幸（秋田大；toki@ipc.akita-u.ac.jp）・尾田太良・天野和孝・山崎　誠・嶋田千恵子
　2004年秋に実施されたIODP Expedition 303では，新生代後期の古海洋環境変動の詳細と原因を究明するため，北大西洋高緯度海域で欠損なしの深海底連続コアの採取を行った．環境変動の解明で北大西洋～北極海域が注目されるのは，その特異な海洋循環システムと，それによって導き出される熱循環システムの変動にある．本シンポジウムでは，様々な古生物種と地化学分析から，北極海を介した北太平洋／北大西洋間の流通史や海洋環境の変遷に焦点を当て，北半球高緯度海域の古海洋環境変動の詳細について議論する．とくに，生息地理，生息水深が異なる貝類，石灰質ナンノプランクトン，有孔虫，貝形虫，珪質微化石などの様々な古生物種の生態系／反応様式から描く海洋構造と，地化学分析から描き出される栄養塩循環モデルとの統合を試みるほか，Exp.303の最新の成果も含め，新生代後期の高緯度海域古海洋環境変遷について議論する．

３．高分解能火山活動史構築の現状・課題（日本鉱物科学会　共催）
High Resolution Volcanic History : Current status and Future prospects
及川輝樹（産総研；teruki-oikawa@aist.go.jp）・伴　雅雄（山形大）・奥野　充（福岡大）・下司信夫（産総研）
　火山活動をより深く理解し将来予測に役立つ情報を発信するためには，より高分解能の火山活動史の構築とそれにリンクさせた岩石学的研究が重要である．90年代頃から，従来無視されていた小規模な噴火堆積物も対象とした高分解能な火山活動史の復元がいくつかの火山で行われるようになってきた．また，火成岩岩石学の分野においても，時空的に高分解能な岩石学的検討が行われるようになっている．本シンポジウムは，将来予測につながる火山活動のより深い理解のために，これら高分解化した両研究手法を結びつける糸口を探りたい．そのため，高分解能な火山活動史構築の現状と問題点をまとめ，精緻な火山活動史が岩石学的手法を含めた火山のより深い理解にどう貢献できるか議論する．また，分解能があがるとそれだけで新たな研究分野が開けることが多い．そのため，より高分解能な活動史を編むための多方面にわたる新たな手法の導入についても議論する．

４．地域振興と地質学－ジオパークが開く地域と地質学の未来－
Geology for regional improvement with geopark
渡辺真人（産総研；mht.watanabe@aist.go.jp）・天野一男（茨城大）・沢田順弘（島根大）・斎藤　眞（産総研）・吉川敏之（産総研）
　東京への一極集中が進む中，地方の経済の活性化が日本の大きな課題となっている．それぞれの地域の特性を生かした観光振興や特産品開発が，多くの地域で地域経済活性化の重要な柱と考えられている．もっとも基本的な地域の特性は地質・地形などGeoに関わる特性であり，それが地域の景観・生態系・伝統・文化のベースとなっている．したがって，地質学が地域の振興に果たす役割はきわめて大きい．本シンポジウムでは，ジオツーリズム・ジオパークと言った地球科学による観光振興を中心として，地質学が地域振興にどう活用できるか，実践例をもとに議論したい．

５．地球生命進化と外宇宙との相互作用
Evolution of Earth's life and its interaction with outer space
磯崎行雄（東京大；isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・川幡穂高（東京大）・丸山茂徳（東工大）
　地球生命史における諸重要事件が地球表層環境の激変と不可分であったことは広く理解されるようになった．中生代末の巨大隕石衝突事件を除けば，その環境変化の多くは地球固有の原因が引き起こしたと従来考えられてきた．一方，地球外の現象とくに太陽系外での諸事変が地球表層環境や生命進化に関係してきたという考えが1990年代後半から積極的に議論されるようになった．本シンポジウムではこれに関する最新の学説について議論し，21世紀の地質学/古生物学が目指すべきひとつの方向性を探る．

６．日韓合同深海掘削シンポジウム2008（一般公募あり）（日本地球掘削科学コンソーシアム　共催）
2008 Japan-Korea Joint Symposium on Ocean Drilling
松本　剛（東京大）・朴　進午・川幡穂高（東京大）・梅津慶太（AESTO；umetsu@aesto.or.jp）
　本シンポジウムは統合国際深海掘削計画（IODP）による日韓共同深海掘削研究を実現するため，日本と韓国（および周辺諸国）の研究者が共同で行う事実上の国際シンポジウムである．日韓近海域またはその海域に類似した地質学的背景を持つ地域での研究成果の発表を行い，日韓およびその他参加国が共同で掘削計画（プロポーザル）の策定および実効を目指す．（一般公募あり・５名程度）

７．超高圧変成岩の微細解析の最前線（一般公募あり）
Frontier of micro-analysis on UHP rocks
岡本和明（埼玉大；kokamoto@mail.saitama-u.ac.jp）・寺林　優（香川大）・Hafiz Ur Rehman（鹿児島大）
　1980年代以来，超高圧変成岩の解析は岩石学的手法により進んできた．超高圧変成岩の研究の新たな突破口となる放射光，イオンマイクロプローブ，電子顕微鏡解析による最新研究成果の紹介とともに研究手法の開発の議論をする．（一般公募あり・1-2名）

８．「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１Ａの成果［総括］（日本地球掘削科学コンソーシアム　共催）
Nankai trough seismogenic zone experiments stage 1A
坂口有人（JAMSTEC; arito@jamstec.go.jp）・芦　寿一郎（東京大）・木村　学（東京大）
　統合国際深海掘削（IODP）のもと，地球深部探査船「ちきゅう」による初めての科学掘削が本邦熊野灘沖で2007年９月から2008年２月に実施された（南海トラフ地震発生帯掘削計画のステージ１Ａ）．これは今後数年間引き続く震源領域深部掘削の第一弾である．東南

海地震（1944年 M＝8.0）の分岐断層，付加体先端のプレート境界断層，熊野海盆の合計12地点33ヶ所において，海底下約190m～1400mの掘削同時検層およびコア採取が試みられ成功裏に終了した．シンポジウムでは航海の報告と最新の研究成果を紹介し，幅広い議論を行っていく．本シンポジウムを付加体－地震発生帯システム研究の記念的マイルストーンとしたい．

7．一般発表の募集について＜演題および原稿締切　オンライン：7月10日（木）17：00，郵送：7月7日（月）必着，行事委員会扱い＞

9月20日～9月22日の3日間（いずれも午後）での一般発表を募集します．下記の要領にて口頭，ポスター発表を募集します．できる限りオンラインでの申込にご協力下さい．やむを得ず郵送で申し込む場合は所定の申込書に必要事項を記入の上，返信用（自分宛）の官製ハガキ，保証書・同意書，講演要旨とともに7月7日（月）必着で行事委員会宛にお送り下さい．プログラムの編成が終わり次第，発表セッションや発表日時などをe-mailで通知します（郵送の場合は返信ハガキ）．なお，発表セッションや会場・時間などのプログラム編成につきましては，各セッションの世話人の協力を得て，行事委員会が決定します．

(1) セッションについて

本年会は，9月20日（土）～9月22日（月）の3日間で一般発表を行います．専門部会の提案などにより22件の定番的セッションと，8件のトピックセッションを設けました（p.（10）～（12）表1参照）．

(2) 講演に関する条件

日本地質学会の会員は，口頭発表かポスター発表かのいずれかの方法で，1人1題に限り講演を行うことができます．共同発表の場合は上記の条件を講演者（＝筆頭発表者）に適用します．非会員は筆頭発表者になれませんので，必ず7月7日（月）までに入会手続きを行って下さい．入会申込書が届いていない場合は，講演申込は受理されません．

(3) 招待講演について

本年より，トピックセッションにおいては，世話人は会員・非会員を問わずに招待講演を依頼することができます．招待講演は1セッションにつき，半日あたり1講演に限ります．招待講演についても申込期日までに一般発表と同様にお申し込み下さい（世話人が取りまとめてオンライン入力をすることは可能です）．定番セッションでは招待講演の設定はありません．なお，非会員の招待講演者に限り参加登録費は免除となります．

(4) 講演申込上の注意

1）オンライン申込はホームページ：http://www.geosociety.jp/にアクセスし，オンライン入力のフォームに従って入力して下さい．

2）講演方法については，「口頭」，「ポスターセッション」，「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい．ただし，申込締切後の変更はできません．

3）発表題目，発表者氏名について，必ず登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい．

4）共同発表の場合は全員の姓名を完記して下さい．

5）発表を希望するセッションを第2希望まで選んで下さい．

6）コメント欄について：発表の対象とする地域の記入を要するセッションについてはこの欄に国名・県名等を入力して下さい．また，関係する一連の発表があるときは，その順番希望などもこの欄に入力して下さい．

7）口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows Vista, Office　Standard 2007）を用意します．パワーポイントを使用する方は，試写室において正常に作動することを事前に確認してください．特に，会場に設置するものと異なるバージョンで作成されたファイルは，レイアウトが崩れる事例が報告されていますのでご注意願います．パワーポイントを使用しない方やMacパソコンを使用される方は世話人とご相談下さい．なお，今大会から35mmスライドプロジェクターの用意はありません．

(5) 講演要旨原稿の投稿について＜演題および原稿締切　オンライン：7月10日（木）17：00，郵送：7月7日（月）必着，行事委員会扱い＞

例年と同様に講演要旨をAdobe社が策定したPortable Document Format（PDF）のファイルで電子投稿していただきます．一般講演およびシンポジウムの原稿はA4判1枚（p.（14）のフォーマット参照）で，印刷仕上がり0.5ページ分です．1ページに2件分ずつ印刷します．原稿はそのまま版下となり，70%程度に縮小して印刷されます．文字サイズ，字詰めおよび鮮明度には十分配慮し，PDFファイルを作成して下さい．やむを得ず郵送する場合は，オリジナルか，鮮明にコピーした現物を1枚だけ郵送（差し支えなければ折りたたみ可）して下さい．FAXやe-mailでの原稿送付は受け付けません．（**p.（13）をご参照下さい**）

8．講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理，引用方法，校閲について

(1) 講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理

2003年1月から日本地質学会の出版物への投稿原稿に対して，その倫理性について著作者に保証して頂くために「保証書」に，また著作権を日本地質学会に譲渡することを同意する「著作権譲渡同意書」に，それぞれ署名捺印をして提出していただくことになりました．本大会では，電子投稿のため，画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」に同意していただいた場合に限り，電子投稿の画面に進むことができるようになっています．郵送の場合は，p.（15）の保証書及び同意書に署名捺印をして，講演要旨と共にお送り下さい．「保証及び著作権譲渡等同意書」が同封されていない講演申込は受け付けられません．

(2) 講演要旨における文献等引用方法

要旨においては引用文献の記載方法は簡略化することが慣習として認められていますが，著者名，発表年，掲載誌名などを明記し，引用文献が特定できるようにして下さい．

(3) 講演要旨の校閲

行事委員会は，申し込まれた講演について，要旨原稿の基本的な体裁と，会則第4条に示されている日本地質学会の目的ならびに日本地質学会倫理綱領に反していないかということについてのみ校閲を行います．校閲の結果，いずれかの条項に反していると判断された場合には，行事委員会は講演内容の修正を求めるか，あるいは講演申込を受理しないことがあります．行事委員会の措置に同意できない場合には，当該講演申込者は法務委員会（東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル　日本地質学会事務局気付）に異議を申し立てることができます．法務委員会は直ちに審理し，結論を行事委員会ならびに異議申立者に伝えることになります．

この受理方法は，招待講演者にも適用されます．異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載されます．

9．一般発表の要領（シンポジウムについてはp.（２）６項を参照）

(1) 口頭発表

1）講演時間は１題あたり15分（討論時間３分を含む）です．講演者は，討論など持ち時間を十分考慮し余裕を持って講演を行って下さい．

2）各会場には，液晶プロジェクター，Windowsパソコンを各1台とスクリーン１幕を設置します（７．一般発表の募集について（4）の7）を参照）．

(2) ポスター発表

1）１題について１日間掲示できます．各日とも発表者はコアタイム（開催日によって異なる）にその場に立会い，説明をするものとします．設置，撤去時間等については，本誌８月号に掲載されるプログラムをご覧下さい．ボード面積は１題あたり，縦180cm，横90cmです．

2）発表番号・発表名・発表者名をポスターのタイトルとして明記して下さい．

3）掲示に必要な画鋲等は，発表者がご持参下さい．

4）ポスター会場では，コンピューターによる発表や演示等も許可しますが，使用する機器については発表者がご準備下さい．また，電源は確保できませんので，予備のバッテリーをご用意下さい．講演申込の際に機器使用の有無や小机の必要性をコメント欄に記入し，事前に世話人ご相談下さい．

5）運営細則第11条（6）項により，優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与いたします．具体的な事柄については，プログラムに掲載しますのでご注目下さい．

(3) 発表者の変更

あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会へ連絡して下さい．この場合も筆頭講演者については７項の（2）の条件が適用されます．

(4) 口頭発表の座長の依頼について

セッションによっては各会場の座長を参会者にお願いすることになります．あらかじめ座長依頼を差し上げることになりますが，その際にはぜひともお引き受けいただきたく，ご協力をお願いします．

10．ランチョン申込要領＜申込締切　７月７日（月）必着，行事委員会扱い＞

９月21日（日），22日（月）にランチョンの開催を希望する方は，（1）集会の名称，（2）世話人氏名，（3）集会内容等，を明記してe-mailで（ハガキも可）行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は７月７日（月）です．なお，世話人の方は，終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい（800字以内，原稿締切10月15日）．

11．夜間小集会の申込要領＜申込締切　７月７日（月）必着，行事委員会扱い＞

９月21（日）は18：00～20：00，22日（月）は17：30～19：00（予定）です．夜間小集会の開催を希望する方は，（1）集会の名称，（2）世話人氏名，（3）集会内容（50字以内），（4）参加予定人数，（5）OHP・液晶プロジェクターの要・不要，（6）その他特記すべきこと，をe-mailに明記して（ハガキも可），行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は７月７日（月）です．なお，世話人の方は，終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい（800字以内，原稿締切10月15日）．

12．近畿日本ツーリスト（株）への各種申込とお支払について

(1) 申込方法

オンラインによる参加登録申込等を受付けます．申込は近畿日本ツーリスト（株）秋田支店（以下KNT）が窓口となります．大会参加登録ホームページ（HP）又はp.（21）に掲載の大会申込用紙にてお申し込み下さい．参加登録・見学旅行・懇親会・講演要旨集追加注文・お弁当及び割引航空券・宿泊を同時に申込可能です．

（a）大会登録専用HPによる申込：申込フォームに必要事項を記入して送信

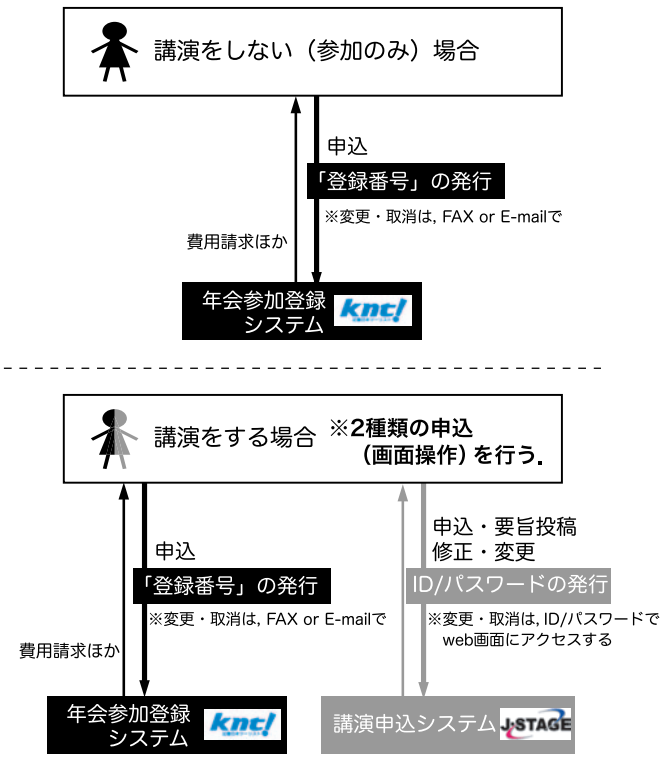
（b）FAXによる申込：申込用紙に必要事項を記入の上，KNT（018-896-4890）宛送信

(2) 申込受付受理

申込受付後，KNTより「受付確認書」をe-mail又はFAXにてご連絡申し上げます．その際，「登録番号」が必ず記載されております．こちらの「登録番号」はその後の問合せ，変更，取消等に必要となりますので，恐れ入りますが失念されぬようお願い致します．

＜オンライン参加登録/講演申込システム＞

※いずれも大会HPからアクセスできます。



★両システムはそれぞれ独立しています。「登録番号」とIDは共通ではありません。

★講演申込システムは，締切日まで、画面上で自由に変更・修正が可能です。

(3) 申込締切

8月8日（金）18：00

(4) お支払方法

銀行振込・クレジットカード決済をお選び頂けます．申込締切後，参加者の皆様へ「予約内容確認・ご請求書」を送付致します．銀行振込ご希望の方は，請求書に記載されている振込口座へ指定期日までにお振込み下さい．クレジットカード決済希望の方は，登録申込の際必ずクレジット番号などの必要事項をご記入下さい．振込期日に合わせてご指定のクレジットカードに課金致します．カード会社よりお客様に送付される明細には学会名ではなく「近畿日本ツーリスト（株)」と表示されます．

(5) 参加証・各種クーポンの送付

振込期日後，お支払いの確認が取れている方へ順次発送致します．大会開催1週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．お支払いの確認が取れていない方へはご送付できませんので，皆様の振込期日厳守を何卒よろしくお願い致します．

(6) 取消に関わる返金

所定の取消料の他に返金振込料を差し引いた額を大会終了後お返し致します．クレジットカードにてお支払の場合は，ご利用頂いたカードへご返金となります．

(7) 申込後の変更・取消

申込後に変更・取消が生じた場合は，KNT宛FAX又はe-mailにてご連絡下さい．その際申込受付時に案内される「登録番号」及び「大会名」「氏名」を必ず明記下さい．

13. 参加登録申込および参加登録費（講演要旨集付き）について＜申込締切　8月8日（金），近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

当日会場受付での混雑緩和のため，事前に参加登録申込をお願いします．大会参加登録およびそれに伴う参加費は，全ての参加者（見学旅行のみの場合も）に必要な基本的なお申込です．ただし，会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供については必要ありません．

申込は，Web上もしくはp.（21）に掲載の申込用紙で一括申込できます．申込は，「12．近畿日本ツーリスト（株）への各種申込と費用について」を参照し，申し込んで下さい．

参加登録費（講演要旨集付です．講演要旨集が不要の場合でも割引はありません．なお，学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には，講演要旨集は含まれません．ご希望の方は，別途ご購入下さい）

	事前申込	当日払い
正会員	7,500円	9,500円
院生割引会費適用正会員	4,500円	6,500円
学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生	500円	500円
非会員（一般・院生）	12,000円	15,000円

＊なお，大会に参加できなかった場合は，大会後に講演要旨集をお送りします．参加登録費用の返却はいたしませんのでご了承ください．
＊シンポジウムの共催・協賛団体に会員として所属する方の参加登録費は学会員と同額になります．

14. 講演要旨集のみの予約頒布について＜予約締切　8月8日（金），近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

大会参加費には講演要旨集の代金が含まれていますので，大会に参加される場合は別途購入の必要はありません（ただし，学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には，講演要旨集は含まれません．ご希望の方は，別途ご購入下さい）．大会に参加されない方ならびに参加する方が複数の講演要旨集を購入される場合の予約頒布です．申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．要旨集の受け取り方法には，(1) 大会後に送付，(2) 会場で受取り，があります．(1) の場合は，別途送料が必要です．(2) の場合は，大会受付にて確認書の提示が必要となりますので，必ずご持参下さい．残部があれば大会当日あるいは大会後にも頒布します．売り切れの場合はご容赦下さい．

	事前予約（/冊）	当日販売（/冊）
会　員	3,000円	4,000円
非会員	4,000円	5,500円

＊送付の場合は以下の送料を付加して下さい．
送料：1冊　500円，2冊　600円，3冊　800円，4冊　1,000円，5冊　1,200円

15. 見学旅行参加申込要領＜申込締切　8月8日（金），近畿日本ツーリスト扱い＞

総計11コースの見学旅行（A～K班）を計画しました（p.（17）・（18）参照）．見学旅行の参加申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．参加希望の方は，Web申込手続き手順に従って参加申込を行ってください．FAXでのお申込は，p.（21）の申込用紙を用い，**近畿日本ツーリスト宛**に大会参加申込と一緒に申し込んで下さい．見学旅行だけに参加する場合も大会参加登録ならびに参加登録費は必要です．見学旅行と大会参加登録の申込を合わせて行って下さい．申込締切後，**近畿日本ツーリストから**料金を請求いたします．

(1) 申込に際し，希望の班が満員の場合に備え，①キャンセル待ち，②第2希望の班の指定，③他班希望なくキャンセル待ちせず，のいずれかを必ず指定して下さい．

(2) 参加申込人数が各見学コースの実施最小人数に達しなかった場合，見学旅行を中止することがありますので，早めに申し込んで下さい．

(3) 非会員の方は，申込締切時点で定員に余裕があれば参加可能となりますので，あらかじめ申し込んでおいて下さい．

(4) 日本地質学会ならびに同秋田大会実行委員会は見学旅行参加者に対し，見学旅行中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する

責任・補償を一切負いません．これらについては，見学旅行費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます．

(5) 子供同伴など特別な事情がある場合は，申込前に**見学旅行係**へあらかじめ問い合わせて下さい．

(6) 参加取消しの場合は必ずFAX又はe-mailにて**近畿日本ツーリスト宛**連絡して下さい．その際，大会名・氏名・登録番号・内容を必ずご記入下さい．費用送金の如何にかかわらず，申込受付後は取消料が発生します．申込受付締切後出発の３日前までは参加費用の50%（出発の２日前以降の場合は全額）を取消料としていただきます．万一，費用の振込み後に取消しされた場合は，所定の取消料，返金振込料を除いた金額をお返しすることになりますのでご了承下さい．カードにて支払をされた方へは，カードに返金いたします．

(7) 集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，大会期間中は掲示などの案内に注意して下さい．

(8) 見学旅行の解説は案内書を使って行います．参加申込時に「16．見学旅行案内書の予約頒布について」を参照し，あらかじめ予約購入してください．

16．見学旅行案内書の予約頒布について＜予約締切　８月８日（金），近畿ツーリスト扱い＞

大会に参加されない方でもご購入いただけます．申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．なお，見学旅行案内書は，地質学雑誌の補遺版（CD）として，12月号刊行時に会員配布されます．

案内書の受け取り方法には，(1) 大会後に送付，(2) 会場で受取り，があります．(1) の場合は，別途送料が必要です．(2) の場合は，大会受付にて確認書の提示が必要となりますので，必ずご持参下さい．見学旅行参加者は会場の受付にて受取って下さい．

残部があれば，大会当日あるいは大会後にも頒布します．売り切れの場合はご容赦下さい．

＊価格：2500円/冊（送付の場合は下記の送料を付加して下さい．）

送料：１冊　500円，２冊　600円，３冊　800円，４冊　1,000円，５冊　1,200円

17．懇親会参加申込要領＜申込締切　８月８日（金），近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

懇親会は，９月20日（土）表彰式・記念講演会終了後，秋田大学学生会館生協食堂において日本鉱物科学会と合同で行います（18：00頃～19：30）．会費は正会員5,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員および会員の家族は2,000円です．非会員の会費は会員に準じます．準備の都合上，前金制の予約参加とします．秋田の郷土料理も準備して，たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第〆切ります．当日会費は1,000円高くなります．

予約申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて８月８日（金）までにお申し込み下さい．当日は参加証を受付にご持参下さい．参加取り消しの場合でも会費の返却はいたしませんのでご了承下さい．

懇親会終了後に行う予定の各大学同窓会は，期日までに申込がなかったため残念ながら今年度は開催されません．

18．お弁当予約販売＜申込締切　８月８日（金），近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

９月20日（土）～９月22日（月）には昼食用の弁当販売をいたします（1個700円，お茶付き）．「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて，８月８日（金）までにお申し込み下さい．お弁当利用日より９日前～前日までは50%，当日は100%のキャンセル料がかかります．なお，20日（土）と22日（月）は生協食堂も営業しています．

19．秋田市内での宿泊・割引航空券の斡旋＜申込締切　８月８日（金），近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

秋田市内での宿泊，割引航空券の斡旋になります．詳細はp.（19）・（20）案内をご覧になり，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，お申し込み下さい．

20．書籍販売および見本展示，機器等の展示・販売申込＜申込締切　８月８日（金），秋田大生協扱い＞

年会開催期間中の展示・販売等は，９月20日（土）～22日（月）（会場：秋田大学）の３日間とします．問い合わせおよび申込は，８月８日（金）までに直接秋田大生協（下記）へお願いします．

〒060-0808　秋田市手形学園町1-1　秋田大学生活協同組合

担当：専務室（森），e-mail : mori@akita.u-coop.or.jp，TEL. 018-832-7141　FAX. 018-832-1105

21．保育室の開設＜利用申込締切　９月５日（金），秋田大会準備委員会扱い＞

乳幼児・児童を同伴する大会参加者のため，大会会期中保育室を開設します．利用希望の方は学会HPをご参照ください．託児当日についての詳細などは，大会HPまたは申込時に担当者にご確認下さい．

保育室担当者

１）日本地質学会秋田大会実行委員会

担当：千田恵吾

〒010-8502　秋田市手形大沢28-1　秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館

Tel : 018-889-2461　Fax 018-889-2465　e-mail : chida@galena.mine.akita-u.ac.jp

２）保育室運営：

マミーズ・ハウス　担当：鈴木

〒010-1414　秋田市御所野元町6-2-3　Tel : 018-826-0208　Fax：018-826-0233

22．実行委員会組織

秋田大会では，地質学会と同時開催される日本鉱物科学会と懇親会や一部セッションなど共通化される部分が多いため，両学会員の合同で実行委員会が組織されています．諸連絡の代表窓口は大会実行委員会事務局長の西川　治（TEL 018-889-2467，FAX 011-889-2465，e-mail：nishi@ipc.akita-u.ac.jp）です．また，内容によって，それぞれ担当が決まっていますので，下記の中で該当する係（代表者）に直接ご連絡下さい．複数で担当の場合，＊印が代表者です．下記氏名の次のカッコ内は，各係の連絡先（TEL，e-mail）を示しています．

委員の所属が特に記入されていない場合は，秋田大学の所属です．電話番号の市外局番が明記されていないものは018です．

2008年秋田大会実行委員会

委員長：白石建雄（889-2652，shiraishi@keigo.mine.akita-u.ac.jp）
副委員長：水田敏夫
事務局長：西川　治（889-2467，nishi@ipc.akita-u.ac.jp）
総務：山元正継（889-2375，yamamoto@galena.mine.akita-u.ac.jp），石山大三・嶋田智恵子（889-2798，cshim-1008@mbp.nifty.com）
会計：川原谷　浩*（889-2454，kawaraya@cges.akita-u.ac.jp）・千田恵吾（889-2461，keigo@galena.mine.akita-u.ac.jp）
会場・機器：山崎　誠*（889-2383，yamasaki@keigo.mine.akita-u.ac.jp）・水田敏夫・石山大三・西川　治・佐藤時幸（889-2371，toki@ipc.akita-u.ac.jp）
企業・団体展示：山元正継・大場　司（889-2374，t-ohba@ipc.akita-u.ac.jp）・細野高啓
見学旅行：大友幸子*（023-628-4424，yukiko@mail.sci.hokudai.ac.jp，山形大学）・越谷　信（019-621-6439，koshiya@iwate-u.ac.jp，岩手大学）・土谷信高（019－621-6558，Tsuchiya@iwate-u.ac.jp，岩手大学）・村上英樹（889-2446，hidekim@cges.akita-u.ac.jp）
懇親会：水田敏夫*，大場　司
普及・企画（市民講演会）：白石建雄*・林　信太郎（889-2651，hayashi@ipc.akita-u.ac.jp），西川　治
展示会場：秋田大学生活協同組合（森），（TEL. 018-832-7141　FAX. 018-832-1105　mori@akita.u-coop.or.jp）
渉外：白石建雄*・水田敏夫・西川　治
宿泊・交通：近畿日本ツーリスト（株）秋田支店　日本地質学会秋田大会　受付担当デスク（澤田）（TEL　896-4890，FAX　896-4922，akita@or.knt.co.jp）
保育室：千田恵吾*・西川　治・マミーズ・ハウス担当：鈴木（231-7201，mami-zu@waltz.ocn.ne.jp）
生徒「地学研究」発表会担当：藤本幸雄*（778-0386，230214T05@akitanishi-h.akita-c.ed.jp，秋田西高校）・林　信太郎
地質情報展担当：村上英樹*・西川　治

23. 申込先と締切日＜締切日厳守＞

(1) 行事委員会（東京）に申し込むもの

1）一般講演　郵送　7月7日（月）必着，オンライン　7月10日（木）17：00
2）講演要旨原稿提出　郵送　7月7日（月）必着，オンライン　7月10日（木）17：00
3）ランチョン・夜間小集会　7月7日（月）

(2) 実行委員会（秋田大）に申し込むもの

1）賛助会員・企業等団体展示会（係代表者へ）8月8日（金）
2）保育室利用　（大会HPから）9月5日（金）

(3) 地学教育委員会（東京）に申し込むもの

1）小さなEarth Scientistのつどい　7月22日（火）

(4) 近畿日本ツーリスト（株）秋田支店に申し込むもの（web申込・申込書を郵送またはFAX）

1）大会参加（参加登録費・講演要旨集代の支払い）　8月8日（金）18：00
2）講演要旨集頒布（大会に参加しない方および複数購入用）　8月8日（金）18：00
3）見学旅行・見学旅行案内書　8月8日（金）18：00
4）懇親会・弁当　8月8日（金）18：00
5）宿泊・交通　8月8日（金）18：00

(5) 秋田大生協に申し込むもの

1）書籍販売および見本展示，機器等の展示・販売申込　8月8日（金）

24. 連絡先一覧

日本地質学会行事委員会※/地学教育委員会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６F
TEL　03-5823-1150
FAX　03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp
大会HP：http://www.geosociety.jpより

日本地質学会第115年年会（秋田大会）実行委員会
秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館気付
〒010-8502　秋田市手形大沢28-1
Tel：018-889-2467（西川）
Fax　018-889-2465（博物館）
e-mail：nishi@ipc.akita-u.ac.jp

近畿日本ツーリスト（株）秋田支店
日本地質学会秋田大会　受付担当デスク（澤田）
TEL　018-896-4890
FAX　018-896-4922
e-mail：akita@or.knt.co.jp
営業時間：（月～金）９：00～17：45
（営業時間終了以降のお申込・変更・取消は翌日扱いとなります）
変更・取消のご連絡はFAX又はe-mailにてご連絡下さい.
お電話でのご連絡はお受け致しかねますので，ご協力よろしくお願い致します.

秋田大学生協
〒060-0808　秋田市手形学園町1-1
秋田大学生活協同組合（森）
TEL　018-832-7141
FAX　018-832-1105
e-mail：mori@akita.u-coop.or.jp

※日本地質学会行事委員会（2008年４月25日現在）
委員長　斎藤　眞（担当理事）
委　員　吉川敏之（地域地質部会）
岡田　誠（層序部会）
北村晃寿（古生物部会）
小松原純子（堆積地質部会）
上野将司（応用地質部会）
斎藤文紀（現行地質過程部会）
坂本正徳（情報地質部会）
田村嘉之（環境地質部会）
大坪　誠（構造地質部会）
宮崎一博・青矢睦月（岩石部会）
内山　高（第四紀地質部会）
片山　肇（海洋地質部会）
古川竜太（火山部会）
大久保　進（石油，石炭関係）
中井　均（地学教育関係）

表1．セッション一覧

・セッションテーマ，（提案部会名）（地域名等特記事項），世話人（＊印責任者），趣旨の順に掲載．
・特に断りのないセッションは口頭とポスターの両方を募集します．
・提案部会に関わりなく，会員はいずれのセッションにも応募できます．ただし，応募は口頭かポスターのいずれか１件に限ります．
・「地域名必要」の記載があるセッションは，申込の際に研究対象の地域名を記入してください．
・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコンを用意します．ただし講演申込時に，OHPを申し込まれた方はOHPを使用することができます（昨年スライドプロジェクターの希望が無かったため，本年よりスライドの用意はありません）．また液晶プロジェクターを使用される方で，Macパソコンを使用される方は世話人とご相談下さい．

【トピックセッション：８件】

１．ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス）

松岡　篤（新潟大；matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・堀　利栄・小松俊文・近藤康生・尾上哲治，石田直人

2002年の新潟大会プレシンポジウム以降，毎年開催しているトピックセッション「ジュラ系＋」の成果を踏まえ，ジュラ系および隣接する地質系統の研究に関する到達点を共有するとともに，わが国がジュラ系研究の拠点となることを目指す．トリアス・ジュラ系境界などのGSSPの決定にかかわり，国際的にはジュラ系の研究が活発におこなわれている．また，2008年８月にはノルウェーでIGCが開催され，IGCに向けて新たな地質年代尺の構築も進んでいる．このような国際的な動きに対して，アジアから何が発信できるのかを議論したい．

２．地下地質環境の地球科学：現象と応用

吉田英一（名古屋大；dora@num.nagoya-u.ac.jp）・高橋正樹・梅田浩司・渡辺芳夫

地下地質環境は，エネルギー備蓄や放射性廃棄物処分，CO_2貯蔵などの様々な観点からその長期的な利用が具体的に検討されつつある．一方で，変動帯における日本の地下環境の働きとその長期的挙動を理解するためには，火山・断層活動や隆起・沈降などといった広域的な地質現象だけでなく，それらに伴う地下水流動や地球化学的・（微）生物学的な変化，さらには地下空洞掘削に伴う影響などをも考慮した複合的アプローチが不可欠と考えられる．しかしながら，地下環境利用のニーズは高まっているものの，必ずしも多面的な地質現象やその研究方法，課題に関して工学的な影響をも含めた現象を複合的かつ専門的に議論できる場が多いとはいえない．このような背景のもと本セッションでは，日本の地下地質環境に関して重要と思われる様々な地質現象とその影響ならびに応用という観点から，様々な分野の専門家との科学的・技術的な意見交換を行うことを趣旨に開催したい．

３．グリーンタフルネサンス－水中火山砕屑岩類の堆積相解析に基づいた日本列島新生代テクトニクスの再構築－

天野一男（茨城大；kazuo@mx.ibaraki.ac.jp）・松原典孝

グリーンタフは新生代日本列島のテクトニクスを考える上でキーとなる地層であり，その研究の歴史は古い．層序を編むことを中心に進められてきたグリーンタフ研究は，1970年代にプレートテクトニクスの概念がもたらされると日本列島の発達史と共に論じられ，1990年代前半に東北日本弧において総括的な研究がなされた．しかし，その後グリーンタフ研究は一気に下火となった．一方，グリーンタフを水中火山岩という観点で捉え，その形成メカニズムを詳細に検討する研究は進められていた（山岸，1994など）．しかし，これらは海岸などの露頭規模のものに限られており，広範囲にわたって検討した研究はまったくなかった．そのため，堆積相解析の結果をテクトニクスや島弧発達史の復元に利用できることはほとんど無かった．近年，南部フォッサマグナや東北日本の一部で，水中火山砕屑岩類の堆積相解析に基づいた新たなテクトニクス研究の成果が報告されるようになり，さまざまな分野から注目されはじめている．国際的には堆積相解析的手法にもとづいた水中火山砕屑岩類の研究は飛躍的に発展してきた．特に，陸上に露出した水中火山砕屑岩類の研究は，海洋性島弧系の研究に一石を投じるものとして注目されている（Busby et al. 2006など）．本シンポジウムは堆積相解析を利用してグリーンタフ研究に一石を投じ，新生代日本列島のテクトニクスの新たな発展をめざすものである．

４．地球史とイベント大事件４：環境と生命の進化に迫る

清川昌一（九州大；kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・山口耕生・黒田潤一郎・小宮　剛

地球史46億年．地球環境は，内的・外的なフォーシングによって，様々な時空スケ・span >[ルで（時に激的な）進化をとげてきた．地球史初期に誕生した生命は，環境に適応した進化をとげた一方で，環境を自ら変えてきた．地球史における数々のイベントの性質とそれに対するレスポンスの解明を目指し，地層や岩石・鉱物に記録されたテクトニック変動・表層環境変動・（微）生物活動の歴史の解明に関する最新の研究動向を探る．

５．後生動物の進化と絶滅史

小宮　剛（東京工大；tkomiya@geo.titech.ac.jp）・上野雄一郎（東工大）・磯﨑行雄（東京大）

地球生命進化史の中で重要な後生動物の飛躍的進化がおきた代境界事件（原生代／古生代／中生代／新生代）に焦点を当て，日本で初めて解明された斬新な研究成果を発表／議論する．とくに新しいタイプの後生動物の出現と直前の大量絶滅の前後の時期の表層環境激変に注目する．

６．高分解火山地質学

及川輝樹（産総研；teruki-oikawa@aist.go.jp）・伴　雅雄・奥野　充・下司信夫

シンポジウム「高分解能火山活動史構築の現状・課題」に関連した研究の一般講演を募る．火山層序学，岩石学，堆積学，実験などの手法を駆使し，時空的に高分解能な火山活動史を構築した研究を募集する．

７．沖積層研究の新展開

木村克己（産総研；k.kimura@aist.go.jp）・卜部厚志・三田村宗樹

平野の軟弱地盤を構成する沖積層については，近年，堆積シーケンスや高密度な放射性炭層年代に基づいたダイナミックな地形・地層形成の捉え方，そして，ボーリングデータの空間情報処理による３次元数値モデルと地盤の可視化，地質と地盤工学特性との統合などの新しい研究が展開されてきている．本セッションは，これまでの層序・化石に関する研究に加えて，こうした新しい研究手法からの研究も合わせて，沖積層の層序，堆積環境，地層形成，地質・地盤モデルやその解析手法について，総合的に意見交換ができる場として設定する．

8.「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１Ａの成果

坂口有人（JAMSTEC；arito@jamstec.go.jp）・芦　寿一郎・木村　学

同名のシンポジウムでは概要とハイライトが紹介されるが，本セッションではより詳細な議論と関連研究の紹介等を行い，今後の深部掘削へとつなげたい．乗船研究者および陸上研究者，そして同計画に関心を持つ広い分野から領域横断的な研究発表を歓迎する．

【定番セッション：22件】

9．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）（地域名必要）

吉川敏之（産総研，t-yoshikawa@aist.go.jp）・岡田　誠（茨城大）・斎藤　眞（産総研）

国内，海外問わず各地域に関係した地質や層序の発表を広く募集．地域的な年代，化学分析，リモセン，活構造，応用地質等の発表も歓迎．地質災害地の地質，惑星地質もここに含まれる．地域を軸にした討論を期待する．地質図や断面図のポスター発表を特に歓迎．

10. 地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）（地域名不要）

里口保文（琵琶湖博物館，satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠（茨城大）

テフラ等の鍵層を用いて異なる地域間の層序対比に主体をおく研究や，鍵層そのものを主体とした研究，または複合的層序学等によるグローバルな年代層序スケールの構築に寄与するような研究についての講演を歓迎します．

11. 海洋地質（海洋地質部会）（地域名必要）

片山　肇*（産総研，katayama-h@aist.go.jp）・徳山英一（東大海洋研）・芦　寿一郎（東大海洋研）・小原泰彦（海上保安庁）

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・変動地形学・海域資源・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する．調査速報・アイデアの公表・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する．

12. 砕屑物組成・組織と続成作用（堆積地質部会）（地域名必要）

野田　篤*（産総研，a.noda@aist.go.jp）・太田　亨（早稲田大）

砕屑物を構成する個々の粒子の特性（形態や化学組成）ら砕屑物（岩）の組織・組成を対象とし，砕屑物（岩）の形成・続成過程の復元，後背地や古環境，地質体の発達史を議論する．データ解析手法，現世砕屑物の組成，初期続成過程についての発表も歓迎する．

13. 炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）（地域名必要）

山田　努*（東北大，yamada@dges.tohoku.ac.jp）・Humblet marc Andre（東北大）

炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用，組織，構造，層序，岩相，生物相，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用など，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現世炭酸塩の堆積作用・発達様式，地球化学，生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．

14. 堆積相と堆積システム・シーケンス（堆積地質部会）（地域名必要）

廣木義久*（大阪教育大，hiroki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp）・中条武司（大阪市立自然史博物館）

各堆積環境における堆積相の形成過程と認定，各堆積相の分類・記載，その時空分布をもとにした堆積システムの認定や解釈などを扱う．また，堆積相解析を基礎にした堆積システム変遷の解析およびシーケンス層序学など，地層の形成過程のダイナミックな復元に関連する研究発表と議論を行う．

15. 堆積作用・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）（地域名必要）

小松原純子*（産総研，j.komatsubara@aist.go.jp）・北沢俊幸（原子力機構）

堆積作用や堆積過程に関して，実験・シミュレーション・現地観測および地層観察などに基づいた研究を募る．特定の地域や年代を超えて適応可能な新しい解析手法や多方面からのアプローチによる堆積関連の研究も募集する．

16. 石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）（地域名必要）

大久保　進（石油資源開発，susumu.okubo@japex.co.jp）・金子信行（産総研）

国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．

17. 岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）（地域名不要）

河野義生*（愛媛大，kono@sci.ehime-u.ac.jp）・西川　治（秋田大）

断層岩を含む岩石・鉱物の破壊および変形機構，変形微細構造，岩石・鉱物のレオロジーや物性に関する研究を募る．観察・観測・分析・実験・理論など多方面からのアプローチによる成果を歓迎するとともに，会場での活発な議論を期待する．

18. 付加体（構造地質部会）（地域名必要）

鎌田祥仁*（山口大学，kamakama@yamaguchi-u.ac.jp）・坂口有人（JAMSTEC）

現世，過去を問わず，付加体に関するすべての講演を歓迎する．付加体の形成機構，形成史，微細構造，流体移動，シュードタキライト，温度圧力構造など，様々なアプローチによる成果をもとに議論する．

19. テクトニクス（構造地質部会）（地域名必要）

大坪　誠*（産総研，otsubo-m@aist.go.jp）・丹羽正和（日本原子力研究開発機構）

地球科学の多方面から，大小様々な時間・空間スケールで起こる地質構造の成因や形成機構・発達史に関する講演を広く募集する．野外調査，観測，実験，理論などに基づいた研究発表を歓迎する．

20. ノンテクトニック構造（応用地質部会・構造地質部会）

柏木健司*（富山大，kasiwagi@sci.u-toyama.ac.jp）・永田秀尚（風水土）・村井政徳（中国開発調査株式会社）

テクトニックではない構造（例：堆積物の未固結時変形やランドスライド・地震などによる一過性の構造，重力性の構造その他）の記載・解析・テクトニック構造との区別や比較・応用を議論する．時代・時間やスケールを問わないので，さまざまな分野からの参加を期待する．

21. 古生物（古生物部会）（地域名不要）

北村晃寿*（静岡大，seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤　斎（名古屋大）

古生物に関する，または関連する研究の発表・討論を行う．

22. 噴火と火山発達史（火山部会）（鉱物科学会と共催）

世話人：西来邦章（産総研，k-nishiki@aist.go.jp）・工藤　崇（産総研）

マグマや熱水性流体の上昇過程，噴火様式，噴火推移，噴出物の移動・運搬・堆積，特定火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクス，およびその他火山地質やモデル化に関する幅広い視点からの議論を期待する．

23. マグマプロセス・サブダクションファクトリ（火山部会・岩石部会共催，鉱物科学会と共催）

世話人：金丸龍夫（日大，t-kanama@chs.nihon-u.ac.jp）・古川竜太（産総研）

深成岩および火山岩を対象に，マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの相互作用について，野外地質学・岩石学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．

24. 深成岩及び変成岩（岩石部会；鉱物科学会と共催）（地域名不要）

青矢睦月*（産総研，aoya.m@aist.go.jp）・加々島慎一（山形大）

国内および世界各地の深成岩と変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察まで，またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで，様々な地球科学的手法・規模の視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．

25. 岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会；鉱物科学会と共催）（地域名不要）

石渡　明*（東北大，geoishw@cneas.tohoku.ac.jp）・土谷信高（岩手大）

岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学などの分野をはじめとして，地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を広く募集する．地球構成物質についての多様な研究成果の発表の場となることを期待する．

26. 情報地質（情報地質部会）（地域名不要）ポスターセッションのみ，口頭講演なし

坂本正徳（国学院大・cigma@kokugakuin.ac.jp）・能美洋介（岡山理科大）

地質情報の数理解析，統計解析，データ処理，画像処理などの理論，応用，システム開発，利用技術など，最近の情報地質分野の研究結果を対象とする．また，これらの成果の地質学の広い分野への応用・普及なども歓迎する．

27. 環境地質（環境地質部会）

難波謙二（福島大）・風岡　修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉環境財団，tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）

医療地質，地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など，環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う．

28. 応用地質学一般（応用地質部会）（地域名不要）

上野将司*（応用地質（株），ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）・横田修一郎（島根大）

種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの事例・構築方法，土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査，解析など，応用地質学的視点に立った幅広い地質学研究について発表・討論を行う．

29. 地学教育・地学史（地学教育部会・地学教育委員会共催）（地域名必要）

矢島道子*（地質情報整備・活用機構，yajima-michiko@gupi.jp）

地学教育の現場からの多くの会員諸氏の実践発表・問題提起を歓迎する．また，地学史からの問題提起は地学自身の発展を促す．貴重な史的財産を参会者に示していただきたい．

30. 第四紀地質（第四紀地質部会）（地域名必要）

吉川周作*（大阪市大，yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・白石建雄（秋田大）・内山　高（山梨環科研）

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む．また，新しい調査や研究，方法の開発や調査速報なども歓迎する．

講演要旨の作成・投稿の注意点とPDFファイルの作り方

講演要旨を作成する際，著者には「保証及び著作権譲渡同意書」第１ 項の「保証」内容を守って頂きます（p.（15）参照）．行事委員会は，要旨の内容については関知しませんが，当該「保証」内容を逸脱するものがないか，原稿の基本的な体裁とあわせて校閲します．その結果，不適当とみなされる場合は，修正されるまで講演要旨の受理はされません（不服の場合は法務委員会に訴えることが可能です）．

例年最も多い問題点は，引用文献の表示がない場合です．論文のように細かに引用文献を記載することはスペースの都合上不可能なので必要としませんが，雑誌名，号，ページ等，その文献にたどり着ける最低限の情報は記載して下さい．

要旨の体裁を無視している場合，印刷できませんので体裁を整えて頂くことになります．さらに図等の改変については，著作権法，地質学会著作物利用規定に従って下さい．

このほか，PDFファイルにフォントを埋め込んでいないもの(印刷時にずれることがあります)，要旨作成時に講演番号記入用のスペースがなかったり，余白に無理があるといった場合，体裁を整えるため修正をお願いしています．これらの問題点があった場合，各コンビーナから投稿締切日から１週間をめどに修正依頼が届きます．ただ，その労力はセッションによっては膨大になりますので，あらかじめ著者で完全なものを投稿するようご協力下さい．あわせて講演要旨投稿手順のチェックシートもご参照下さい．

日本地質学会　行事委員会
2008年４月

【講演要旨PDFファイル作成の際の注意点】

1）講演要旨原稿はAdobe Acrobat Reader 4.0以上で表示・印刷可能なPDFファイルで投稿することが必要です．
2）ファイルサイズは3.0Mバイト以内で作成して下さい．
3）発表（講演）番号は事務局にて左上に付記するので原稿内には記載しないで下さい．
4）PDFファイルのセキュリティ設定は「なし」にして下さい．
5）**フォントは必ず「埋め込み」にして下さい．**MacOSX以上は標準でフォント埋め込みが用意されます．MacOS9.2.2以下，Windowsでは下記のソフトが必要です．その際，『すべてのフォント埋め込み』ないし『ハイクォリティー』等，それぞれのソフトの使用説明書に従った指定を必ずして下さい．文字数にもよりますが，できたPDFファイルのサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性がありますので確認して下さい．
6）**作成したPDFファイルを自分で印刷し，図表に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい．**
7）PDFファイルを自分のパソコンに，必ず「.pdf」の拡張子をつけて保存して下さい（Mac, Windowsとも）．

【webでの講演要旨投稿の手順】

1）参加申し込みの後，web上の講演申し込みページにアクセスし，画面に従って連絡者情報等を入力し，講演申し込みの手続きをします（講演申込と同時に要旨投稿をすることもできますし，講演要旨のみ後で投稿する事もできます）．
2）演題・発表者情報登録画面の最下段にある「アップロードファイル」欄から要旨原稿（PDFファイル）を投稿します．欄右側の「参照」ボタンをクリックし，ご自分のPCに保存してあるPDFファイルを選択します．
3）画面下の「次へ」をクリックし，登録内容確認画面に進みます．登録内容を確認後，画面下の「登録」ボタンをクリックします．これによりサーバーにPDFファイルが格納されます．
4）『登録が完了いたしました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という完了画面が表示されます．（注意！！この画面が表示されないと登録は完了していません）
5）登録したメールアドレスに「講演申込のお知らせ」のメールとともに受付番号（＝ID）が配信されます．

★★後から要旨を投稿する場合・申込内容を変更する場合★★

1）ご自分の申込画面に，IDとメールアドレスを用いてアクセスします．
2）「登録内容変更」ボタンをクリックし，画面の最下段にある「アップロードファイル」欄の「修正」ボタンをクリックします．ご自分のPCに保存してあるファイルを選択し，アップロードをします．サーバー側では，ファイル名を元のファイル名から変更し，ID.pdfの名称で格納します．
3）『登録が変更されました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という操作完了画面が表示されます．（注意！！この画面が表示されないと操作は完了していません）
4）「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます．
5）IDとメールアドレスを用いて，投稿締切まで何度でも要旨や登録内容を修正することができます．新しいファイルを投稿すると，古いファイルに上書きされます．そのつど，「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます

【参考情報：PDF（Portable Document Format）ファイルの作り方】

PDFファイルの作成方法は「PDF原稿作成ガイド」http://www.gakkai-web.net/pdf/を参考にすると良いでしょう．

ソフトの紹介要望が多いので，下記にいくつか参考例を挙げます．また，“PDF作成サービス”を行う有料，無料のサイトがあります．ソフト，サイトとも検索してみて下さい．

なお下記について動作確認等しておりません．また推奨するものでもありません．使用は自己責任でお願いします．

Mac OSX以上の場合

フォント埋め込み型のPDF作成機能が標準で用意されています．新たなソフトは必要ありません．

Mac OS 8.6-9.2の場合

EGWORD Ver.12 for Mac OS X/9/8.6

Windows対応品

PrimoPDF　FreeのPDF変換ソフト　http://www.primopdf.com/
クセロPDF　FreeのPDF変換ソフト　http://xelo.jp/xelopdf/
いきなりPDF　http://www.sourcenext.com/products/pdf/
Adobe Acrobat Elements　http://www.adobe.co.jp/

MacOS9.2.2，MacOSX, Windows対応

Adobe Illustrator　http://www.adobe.co.jp/

講演要旨オンライン投稿手順チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です．投稿していただく前に各自でご確認下さい．

1．Word等のソフトで講演要旨原稿を作成する．

□ 「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容は守られていますか？
□ 引用文献は表示されていますか？
□ 要旨の体裁は守られていますか？（詳細は，p.（＊）の原稿フォーマットをご確認下さい）

2．原稿をPDFファイルにする

PDFファイルの作成方法については，本号の「PDFファイルの作り方」を参照して下さい．

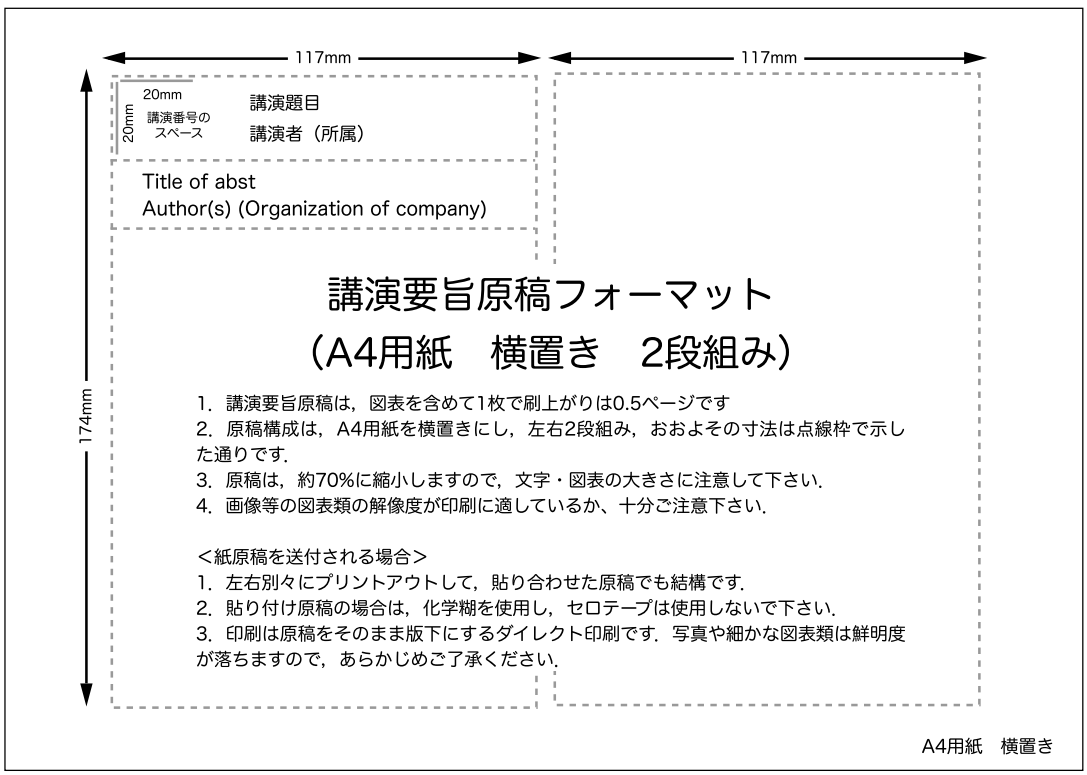
□ フォントは「埋め込み」になっていますか？（できたファイルサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性があります）
□ ファイルサイズは3.0MB以内になっていますか？
□ 作成したPDFファイルを印刷し，図表に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい．また，PDFファイルを自分のパソコンに，必ず.pdfの拡張子をつけて保存して下さい．

3．要旨原稿をオンライン投稿する

□ 別のweb画面から参加申し込みを行いましたか？
□ 講演申し込みのweb画面から講演申し込みの手続きをしましたか？
□ 講演要旨を投稿しましたか？
□ 申込完了画面が表示されましたか（ログイン用の受付番号（=ID）が表示されましたか）？
□ 「講演申込のお知らせ」のメールが配信されましたか？

4．投稿した要旨原稿を修正したい場合

□ ご自分の講演申込画面に，IDと申込時に設定したパスワードを用いてアクセスします．
□ 画面中の「登録内容変更」ボタンをクリックします．
□ 画面の最下段にある「アップロードファイル」欄の「修正」ボタンをクリックし，ご自分のPCに保存してある書き直した要旨PDFファイルを選択し，アップロードをします．
□ 「登録」ボタンをクリックします．これによりPDFファイルが上書きされます．
□ 登録内容確認画面を経た後，操作完了画面が表示されます．
□ 「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます．



＜郵送での投稿の場合は原稿に必ず添付して下さい＞

保証及び著作権譲渡等同意書

著作者（下記）は，日本地質学会によって発行される第115年学術大会「講演要旨」・「見学旅行案内書」に掲載する下記表題の原稿（以下「本原稿」という.）について，以下のとおり保証し，かつ著作権を譲渡等いたします.

第１　保証

著作者は，本原稿について，以下の各号記載の事項を保証し，確約します.

１）本原稿が著作者自身の著作物であり，既にいずれかで出版公表されているものと同一ではないこと.

２）本原稿が既存の出版公表物などに対する知的財産権のいかなる侵害も含まないこと.

３）本原稿中に他から転載されているすべての図表について，転載許可を得ていること.

４）本原稿中，他の論文等の引用がある場合には，当該引用が公正な慣行に合致し，目的上正当な範囲内であること.

５）本原稿には，日本地質学会の名誉を傷つけ，その信用を毀損する盗用データ，捏造データ，その他学会の倫理綱領に反するものを含まないこと.

６）本原稿が共同著作物である場合には，代表して本書に署名捺印する者が，すべての共著者から，本書に著名捺印することについて同意ないし必要な権利を得ていること.

７）本原稿についての問い合わせ，苦情，紛争などが発生した場合，署名者はすべての責任を負うこと.

第２　著作権譲渡等

著作者は，本原稿について，以下の各号記載に同意します.

１）本原稿のすべての著作財産権（著作権法27条，同29条に定める権利を含む）及び２次著作物の創作・利用に係る権利を日本地質学会へ譲渡すること.

２）本原稿について，日本地質学会ならびに日本地質学会から正当に権利を取得した第３者及び当該第３者から権利を承継した者に対し，著作人格権（公表権，氏名表示権，同一性保持権）を行使しないこと

３）本原稿の下記の各利用形態に関する権利を日本地質学会が排他的に行使すること.

ａ）複製，翻訳，翻案（出版，電子出版，翻訳出版，データベース化，ビデオグラム化，その他すべての記録メディアへの記録・掲載などを含む）

ｂ）展示・上映

ｃ）放送，有線放送，自動公衆送信（地上波，CATV放送衛星，通信衛星，インターネット，パソコン通信，その他あらゆる送信媒体及び将来開発されるすべての送信媒体による公衆送信を含む）

ｄ）頒布，譲渡，貸与

ｅ）その他，本著作物に関する一切の利用（技術の進歩により将来生じうる利用形態を含む）

以上

日付　　2008年　　月　　日

本原稿表題

著作者（代表者）　　印

署名者が代表する共著者すべての氏名

行事委員会記入
講演番号　Ｓ／Ｏ／Ｐ　－
【2008年秋田大会見学旅行　　班】

〈一般発表申込書：郵送用〉

発表方法 （丸印をつける）		ポスター	一般発表申込書				＊講演番号
		口頭					
		どちらでもいい		液晶プロジェクター		OHP	
発表題目							
発 表 者 （氏名のみ， 所属不要）							（講演者が筆頭です）
希望 セッション （番号：略記）	第１希望		第２希望		会員資格		
					正会員	正（院生割引）	準会員
					名誉会員	招待講演者	入会申込み中
責任者連絡先	氏名			コメント（対象地域（国・県）など）			
	住所	〒					
	Tel.		Fax.		E-mail		

見学旅行一覧

＊取消料は，申込締め切り後～出発３日前までは50%，２日前以降は全額となります．
＊参加費用には旅行傷害保険（500円）が含まれています．
＊集合地点まで，および解散地点からの交通費は各自の負担となります．
＊参加費用はあくまで概算の金額です．大きな過不足が生じた場合，見学旅行終了時に調整します．
＊案内書は費用には含まれていません．参加申込時に予約購入の手続きをあわせて行ってください．
＊集合・解散の場所・時刻等に変更が生じた場合，学会期間中は掲示板に案内されます．
＊参加者人数が少ない場合，見学旅行が中止になることもあります．
＊レンタカーを使用する場合，参加者の皆様に運転をお願いすることがあります．

班	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者（所属） ＊はリーダー	概算費用	地形図	備考
A	男鹿半島の火山岩相：始新世～前期中新世火山岩と戸賀火山 ＜男鹿半島火山岩相＞	９月23日８：30　秋田大学出発→男鹿半島館山崎→潮瀬ノ岬→　桜島→湯本温泉（泊） ９月24日８：30　湯本温泉→戸賀湾→かぶき岩→入道崎→16：00秋田駅解散（秋田駅発こまち　17：07に間に合う）	“台島層下部”の火砕岩とその産状，始新世～漸新世の海成生痕化石とマグマ-水蒸気爆発噴出物，始新世～前期中新世のリフティングに伴う火山活動と正断層運動，門前層と野村川層との不整合，第四紀戸賀火山，かぶき岩入道崎の始新世の様々な火山岩・火砕岩	９月23日（火・祝）～24日（水）（１泊２日）	20名	大口健志＊（秋田大）・鹿野和彦（産総研）・小林紀彦（国際石油）・佐藤雄大・小笠原憲四郎（筑波大）	21000円	戸賀，北浦，船川（１/2.5万）	レンタカー使用．悪天候の場合（強風雨，波高），見学地点や対象を変更することがあります．昼食は各自ご用意下さい．
B	男鹿半島－能代地域の地形と第四系 ＜男鹿－能代＞	９月23日８：30秋田大学正門出発→男鹿半島→男鹿温泉（泊） ９月24日　男鹿温泉→潟西台地→能代市南部→大潟村→16：00秋田駅解散	男鹿半島第四系層序（北浦層・脇本層・鮪川層・潟西層），広域テフラ（Km, Ks5, B-Og, Aso-1, Toya, SK, Aso-4），トラバーチン，海成段丘，完新世砂丘，活構造	９月23日（火・祝）～24日（水）（１泊２日）	20名	白石建雄＊（秋田大）・白井正明（東京大）・西川治（秋田大）	22000円	船越，寒風山，北浦，入道崎，羽後浜田，森岳，能代（1/2.5万）	中型バス使用．昼食は各自ご用意下さい．
C	地学教育の素材としての男鹿半島 ＜地学教育＞	８：00秋田大学出発→寒風山→安田海岸→西黒沢海岸→入道崎→八望台と目潟→椿→脇本→17：00秋田大学解散	寒風山や目潟など第四紀火山活動，第四紀層と貝化石を主とした化石群および段丘地形，海成第三紀層と第三紀火山活動，基盤岩	９月20日（土） 日帰り 【注意】 大会初日です．	20名	藤本幸雄＊（秋田西高）・林信太郎（秋田大教育文化）・渡部晟（秋田県立博物館）・渡部均（秋田中央高）・栗山知士（能代工業高）・小田嶋博（新屋高）・西村隆（北陽小）・阿部雅彦（秋田高）	4000円	戸賀，船川（1/5万）	バス使用．行程は状況で変更することがあります。昼食はご持参ください．
D	秋田県沿岸ー出羽丘陵新第三系に発達する変形構造 ＜出羽丘陵＞	８：30秋田大学出発→高尾山→由利本荘市大内→鳥田目→矢島→17：00秋田駅解散	北由利，中帳，鳥田目断層に伴う変形諸構造	９月23日（火・祝） 日帰り	14名	西川　治＊（秋田大）・奥平敬元（大阪市立大）	5500円	羽後和田，本荘，矢島（1/5万）	レンタカー使用予定，昼食はご持参下さい．
E	鳥海火山	７：00秋田大学出発→鳥海山５合目鉾立（1150m）→御浜（1700m）→七五三（1790m）→御浜ー鉾立→18：40秋田駅解散 （ただし雨天の場合は山麓を巡るコースに切り替える）（七五三まで登るかどうかは参加者の体力と時間により判断）	鳥海山の十和田a火山灰と平安時代の火山灰，鳥海山の安山岩溶岩とその地形，御浜火口，鍋森山溶岩ドーム，山頂（江戸時代の溶岩ドーム）遠望， （雨天の場合は，象潟岩なだれとその埋没木，象潟地震，象潟郷土資料館，獅子が鼻湿原）	９月23日（火・祝） 日帰り	20名	林信太郎＊・山元正継（秋田大）	6000円	鳥海山，象潟，小砂川（1/2.5万）．雨天の場合は川辺(1/2.5万）も必要	かなり本格的な登山になります。フリース，レインジャケットが必要です．標高の一番高いところの予想気温は摂氏６度から14度の予定です． 昼食はご持参下さい．

班	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者（所属） ＊はリーダー	概算費用	地形図	備考
F	秋田県南部小安秋の宮地域の地熱地質 ＜地熱＞	８：30秋田大学正門出発→小安温泉→バイナリー発電候補地→川原毛温泉→地熱発電所→三途川層→兜山・高松岳火山→18：30秋田駅，19：00秋田空港，秋田大学・市内	小安温泉変質，石英脈，三途川層化石，岩相，断裂系，兜山層火砕流，上の岱地熱発電所，バイナリー発電用促進調査井など	９月23日（火・祝）日帰り	20名	高島勲＊（秋田大）・越谷信（岩手大）	6500円	秋の宮，稲庭（1/5万）	レンタカー使用．秋田空港より羽田，伊丹，小牧便利用可，秋田駅より東京行き利用可．昼食はご持参ください．
G	秋田県の珪藻土，パーライト，ゼオライト鉱床 ＜非金属鉱床＞	８：30秋田大学出発→北秋田市米内沢→北秋田市鷹巣→能代市二ツ井→藤里町→18：00秋田大学解散	珪藻土鉱山，パーライト鉱山（北秋田市），ゼオライト鉱山（能代市，藤里町）で鉱山の観察及び試料採集，並びに精製工場見学	９月23日（火・祝）日帰り	10名	村上英樹＊（秋田大）・村木克行（中央シリカ）・野口泰彦（昭和化学工業）・鈴木清貴（東北ゼオライト工業）	6500円	桂瀬，米内沢，二ツ井，藤琴（1/2.5万），鷹巣（１/5万）	レンタカー使用．汚れても良い靴でご参加下さい．昼食は，道の駅「たかのす」に寄る予定です（各自負担）．地形図は，コピーでよろしければ，案内者が配布します．見学旅行終了後，ご希望があれば，最寄りのJRの駅にお送りします．
H	小坂元山黒鉱鉱床の海底熱水鉱化作用と背弧海盆～島弧の火山活動の特徴 ＜黒鉱鉱床＞	９月22日16：00　秋田大学出発　→大館市・清風荘（宿泊）見学なし，宿泊のみ ９月23日８：30清風荘出発→小平戸内沢→目名市沢→杉沢合流点→二井山西方白川砕石採石場→二井山→四十八滝玄武岩類→樹海ライン笹森展望台から第三系，第四系の地形→小坂（元山黒鉱露天堀り跡），日本海沿岸道高速道路トンネル工事現場（または鹿角市大葛の黒鉱礫の露頭）→17：00秋田大学解散	黒鉱鉱床（元山黒鉱露天堀り跡）及びその時代の関連火成岩類（保滝沢玄武岩類，　四十八滝玄武岩類他），中古生代の基盤岩類，新生代安山岩類，樹海ライン笹森展望台から第三系，第四系の地形，日本海沿岸道高速道路トンネル工事現場（または鹿角市大葛の黒鉱礫の露頭）	９月22日（月）～23日（火）（１泊２日） 【注意】 大会最終日の夕方出発です．	14名	水田敏夫＊・石山大三（秋田大）	15000円	白沢，大館，陸中濁川，小坂，小坂鉱山，毛馬内（1/2.5万）	レンタカー使用．ヘルメットは秋田大学で準備します．昼食は各自負担．
I	安家-久慈地域の北部北上帯ジュラ紀付加体 ＜北部北上帯＞	９月23日８：50盛岡駅集合→安家川上流部→大鳥→高屋敷→17：30山根・べっぴんの湯（泊） ９月24日８：30宿→川又→馬渡→女供→関→合戦場→葛巻→16：00盛岡駅解散→16：40花巻空港	北部北上帯，葛巻－釜石亜帯の大鳥層の石炭紀チャート，P/T境界層，チャート－砕屑岩（中部ジュラ系）シーケンス，関層チャート・泥岩，合戦場層砂岩，安家－田野畑亜帯の高屋敷層混在岩，沢山川層枕状溶岩，安家層石灰岩，間木平層のチャート－砕屑岩シーケンス	９月23日（火・祝）～24日（水）（１泊２日）	20名	永広昌之＊（東北大）・山北　聡（宮崎大）・鈴木紀毅・高橋　聡（東北大）	19000円（２日目の昼食込み）	安家森，（陸中五日市），安家，（端神），岩瀬張，陸中関（１/2.5万）	マイクロバス使用．盛岡駅集合・解散．希望によっては盛岡駅経由花巻空港解散とすることもあり．
J	北上山地前期石炭紀付加体「根田茂帯」の構成岩相と根田茂・南部北上帯境界 ＜根田茂帯＞	９月23日９：50盛岡駅集合→簗川根田茂川合流点→綱取ダム貝田橋→中津川→綱取渓谷→中津川小貝沢→17：00矢巾温泉（泊） ９月24日８：20宿→川目採石場→建石林道→長野峠→早池峰ダム→16：30盛岡駅解散	根田茂帯【含前期石炭紀放散虫シルト岩，泥岩珪長質凝灰岩互層，火山性砂岩，含高圧型変成岩礫礫岩，MORBに伴うFe-Mn質チャート，含Ca-Na角閃石ドレライト，高圧型変成岩テクトニックブロック】 南部北上帯【シルル紀堆積岩，島弧緑色岩，斑レイ岩，角閃岩，蛇紋岩】	９月23日（火・祝）～24日（水）（１泊２日）	20名	内野隆之＊（産総研）・川村信人（北大）・川村寿郎（宮教大）	20000円	盛岡，区界，大志田，陸中折壁（1/2.5万）	レンタカー使用． ・標高差100ｍの急斜面（上り約20分）と沢の歩行（往復約２km）あり ・１日目は沢用シューズ必要（フェルト底かスパイク底の靴を推奨） ・１日目の昼食はご持参ください．
K	北上山地に分布する古第三紀アダカイト質流紋岩～高Mg安山岩と前期白亜紀アダカイト質累帯深成岩体 ＜アダカイト＞	９月23日９：50盛岡駅集合→小本川支流松橋川→二升石→田野畑花崗岩体→宮古市（宿泊） ９月24日８：30宿出発→浄土ヶ浜→宮古花崗岩体→立丸峠→16：30盛岡駅解散	松橋付近の古第三紀高Mg安山岩，二升石・浄土ヶ浜の古第三紀アダカイト質流紋岩，立丸峠の菫青石とホルンブレンドを含む古第三紀アダカイト質流紋岩，前期白亜紀アダカイト質累帯深成岩体の典型例である田野畑花崗岩体および宮古花崗岩体	９月23日（火・祝）～24日（水）（１泊２日）	20名	土谷　信高＊（岩手大）・西岡芳晴（産総研）	16000円	門，岩泉，宮古，土淵（1/5万）	マイクロバス使用，23日の昼食は各自でご用意ください．

日本地質学会第115年学術大会（秋田大会）宿泊・割引航空券のご案内

2008年９月20日（土）～９月22日（月）に，秋田市におきまして「日本地質学会第115年学術大会（秋田大会）」が開催されますことを心よりお祝い申し上げます．

この度，近畿日本ツーリスト（株）が大会に参加される皆様の「宿泊・航空券」のお世話をさせて頂くこととなりました．私共は，全国各地より大会へご参加される皆様方の利便を図るように企画準備いたしております．

KNT近畿日本ツーリスト（株）秋田支店
「日本地質学会第115回学術大会」受付担当

割引航空券のご案内

大会スケジュールに合わせ団体割引航空券を設定致します．５名様以上のご利用で下記料金が適用されます．是非ご利用下さい．

【往路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール	セットプラン片道あたりの料金
			発　　着	
A-1	９月20日（土）	羽田　→秋田	13：00－14：05	12,100円
A-2	９月20日（土）	羽田　→秋田	15：25－16：35	11,500円
A-3	９月20日（土）	羽田　→秋田	15：55－17：00	13,100円
A-4	９月20日（土）	羽田　→秋田	18：00－19：10	13,500円
B-1	９月21日（日）	羽田　→秋田	07：50－09：00	15,100円
B-2	９月21日（日）	羽田　→秋田	09：05－10：10	15,100円
C-1	９月20日（土）	関西　→秋田	16：20－17：45	16,300円
D-1	９月21日（日）	伊丹　→秋田	08：20－09：45	19,200円
E-1	９月20日（土）	中部　→秋田	14：40－15：40	16,700円
F-1	９月20日（土）	新千歳→秋田	10：45－11：45	15,100円
F-2	９月20日（土）	新千歳→秋田	14：40－15：40	19,600円
G-1	９月21日（日）	新千歳→秋田	10：45－11：45	17,100円

【復路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール	セットプラン片道あたりの料金
			発　　着	
ア-1	９月22日（月）	秋田→羽田	17：25－18：35	13,500円
ア-2	９月22日（月）	秋田→羽田	17：50－18：55	13,100円
ア-3	９月22日（月）	秋田→羽田	19：45－20：55	13,500円
イ-1	９月23日（火）	秋田→羽田	09：45－10：55	13,500円
イ-2	９月23日（火）	秋田→羽田	10：55－12：00	13,100円
ウ-1	９月22日（月）	秋田→伊丹	18：20－19：50	18,300円
エ-1	９月23日（火）	秋田→伊丹	12：30－14：00	17,300円
オ-1	９月22日（月）	秋田→中部	16：40－18：10	15,500円
カ-3	９月23日（火）	秋田→中部	16：40－18：10	15,500円
キ-1	９月22日（月）	秋田→新千歳	16：15－17：10	15,500円
ク-1	９月23日（火）	秋田→新千歳	12：25－13：20	19,600円

割引料金（団体割引）

※各設定便ともに５名様以上のご利用があった場合に限り，上記割引運賃が適用されます．
※上記出発時間は2008年４月現在の仮ダイヤに基づいております。多少変更になることがありますのでご了承下さい．
※各設定便毎にお申込のお客様が５名様未満の場合，各特別運賃でご利用頂くために便の変更をお願いする場合がございます．もしくは別途割増料金となりますので，ご了承下さい．
※各便ともに確保している席（10～30席）が満席になり次第締切りとさせて頂きます．
※上記割引航空券としてご案内する航空便は，各航空会社「マイレージプログラム」積算対象外の運賃となりますことをご了承下さい．

宿泊のご案内

9月19日（金）～22日（月）ご宿泊分

9月19日（金）・20日（土）に学会が重なっております．例年通り市内ホテルの混雑が予想されますのでお早めのご予約をお勧め致します．

ホ　テ　ル　名	アクセス	申込記号	部屋タイプ	宿泊代金（お一人様当り）
A：ホテルメトロポリタン秋田	JR秋田駅西口より徒歩１分	AS	シングル	9,950円
		AT	ツイン	8,900円
B：秋田ビューホテル	JR秋田駅西口より徒歩３分	BS	シングル	9,950円
		BT	ツイン	8,900円
C：秋田キャッスルホテル	JR秋田駅西口より徒歩７分	CS	シングル	9,950円
		CT	ツイン	8,900円
D：ホテルドーミイン秋田	JR秋田駅西口より徒歩５分	DS	シングル	9,100円
E：コンフォートホテル秋田	JJR秋田駅西口より徒歩２分	ES	シングル	6,400円
F：ホテルアルファーワン秋田	JR秋田駅西口より徒歩３分	FS	シングル	6,400円
G：ホテルはくと	JR秋田駅西口より徒歩10分	GS	シングル	5,700円

※宿泊料金は，１泊朝付・税金・サービス料込みお一人様の料金となっております．
※「コンフォートホテル秋田」記号ESにつきましては，１泊食事無しの料金となっておりますが，ホテルで無料朝食サービスがございます．
※それぞれ確保している部屋数がふさがり次第，締め切らせて頂きます．

大会参加ホームページ（HP）又はp.（21）に掲載の大会申込用紙にてお申込下さい．詳細はp.（５）掲載の「12．近畿日本ツーリスト（株）への各種申込とお支払について」をご覧下さい．
大会参加登録ホームページ：http://www.geosociety.jpよりアクセスして下さい．
申込締切：８月８日（金）18：00まで

◎変更・取消について◎

お申込内容の変更・取消につきまして，必ずFAX又はe-mailにてご連絡下さい．お電話でのご連絡はお受け致しかねます．
お取消しの際は，下記の取消料を申し受けます．

◎お問合せ先◎

KNT　近畿日本ツーリスト（株）秋田支店
日本地質学会第115年学術（秋田）大会　受付デスク

【航空券】

15日前～８日前	７日前～２日前	前日	当日	便出発以降
20%	30%	40%	50%	100%

【宿泊】

10日前～８日前	７日前～２日前	前日	当日	不泊
20%	30%	40%	50%	100%

〒010-0951
秋田市山王3-1-7　東カンビル２階
FAX：018-896-4922 e-mail：akita@or.knt.co.jp

KNT近畿日本ツーリスト㈱秋田支店宛
〒010-0951 秋田市山王3ー1ー7 東カンビル2階
e-mail : akita@or.knt.co.jp

送信先 018-896-4922

日本地質学会第 115 回学術大会

参加登録及び懇親会・要旨集・弁当・航空券・宿泊・見学旅行 FAX 専用申込書

住　所 予約確認書 送 付 先	〒□□□―□□□□ （都･道･府･県） 必ずお手許に届く住所をご記入下さい。　（勤務先・自宅）
申込代表者氏名	
所属	（部署）
電話番号 ＦＡＸ番号	TEL　－　－　内線（　　） FAX　－　－ e-mail

弊 社 記 入 欄	
受 付 No.	
申込受付日	年　月　日

（ふりがな）お名前	性別	年齢	参加種別	懇親会	要旨集追加	見学旅行案内書	お弁当 20日	お弁当 21日	お弁当 22日	航空機 往路	航空機 復路	宿泊 記号	宿泊 19日	宿泊 20日	宿泊 21日	宿泊 22日
ふりがな　きんき　たろう 例）近畿　太郎	男・女	55	(正) 院生 準 名誉･50年 非 学生非 同伴者	○	冊 送付・受取	1冊 送付・(受取)	×	○	○	A-1	ア-1	DS		○	○	○
1 ふりがな	男・女		正 院生 準 名誉･50年 非 学生非 同伴者		冊 送付・受取	冊 送付・受取										
2 ふりがな	男・女		正 院生 準 名誉･50年 非 学生 同伴者		冊 送付・受取	冊 送付・受取										

見学旅行（申込者：１→上記１の方、　コース：希望コースの記号　キャンセル待ち：希望の方は○　を記入下さい。）

申込者	コース	キャンセル待ち	緊急連絡先（携帯）	申込者	コース	キャンセル待ち	緊急連絡先（携帯）
1	第１			2	第１		
	第２				第２		

支払方法	□ 銀行振込 □ クレジットカード	カード種類（選択）	□VISA　□master　□JCB □ダイナース□アメリカンエキスプレス
有効期限	年　月	カード名義	
カード番号	―　―　―		

備考欄

※ 航空券：団体設定便以外の便の手配も承ります。
　　ご希望の方は備考欄にご希望内容（日時、区間、便名、割引種別など）ご記入下さい。
※ 宿　泊：ツインルームをご希望の方は、同室の方のお名前（組み合わせ）を備考欄にご記入下さい。

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．
また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください．
申込書送付先：101－0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル６F　日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140－8－28067　日本地質学会
会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る）　準会員（旧学生会員）5,000円
＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください．

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan	
＊会員番号	＊会員種別　□正会員（□院生割引）□準会員
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 family name　　first name
_____年Year ____月Mo ____日Day 生born on	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：
学位　Degree: □ 博士Dr. □ 修士 Master □ 技術士 Engineer □ その他 Other	
専門（下欄から3つまで） (Specialities less than 3 items)　1.　　2.　　3.	
学歴 Academic career : _____学校 High school _____年卒業 Year completed _____大学 University_____学部 Faculty_____年卒業（見込み）Year completed 修士 Master :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed 博士 Doctor :_____ 大学 Univ._____研究科 Fac._____年修了（見込み）Year completed	
自宅住所Home address （郵便番号Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
所属機関・住所 Affiliation with address : （郵便番号 Zip code　　－　　） 電話Phone :　　ファックスFax : 電子メールE-mail :	
連絡先 Correspondence :　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員）　　印 Recommended by （name of member）_____Signature	
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします．	
上記本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします． 指導教官（員）　所属：　　氏名：　　印	
＊受付（　　年　　月　　日）＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他 ＊承認（　　年　　月　　日）＊送本（　　巻　　号）	

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only)
専門分野（番号で）01：層位　02：堆積・堆積岩　03：古生物　04：構造地質　05：火山・火山岩　06：深成岩
07：変成岩　08：鉱床地質（金属・非金属）　09：鉱床　10：鉱物　11：燃料地質　12：地熱　13：第四紀
14：環境地質　15：都市地質　16：土木地質　17：土質工学　18：水文地質　19：探査地質　20：土木工学
21：情報地質　22：地震地質　23：海洋地質　24：地球物理　25：地球化学　26：地質年代学　27：地理
28：地学教育　29：考古学　30：その他　40：地球惑星学

日本地質学会*News*

Vol.11 No.5 May 2008

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
編集委員長　倉本真一
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会第115年学術大会（秋田）予告記事 ……（１）～(22)

表紙紹介　地質学雑誌発行の趣旨 ……2

案内 ……4
2008年度日本地球化学会年会のお知らせ/地球地図フォーラム2008/IUMRSアジア国際会議2008/サマー・サイエンスキャンプ2008参加者募集/堆積学スクールOTB2008

公募 ……5
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻公募

各賞・助成 ……5
（財）住友財団研究助成募集/文部科学大臣表彰科学技術賞・若手科学者賞候補者推薦

紹介 ……6
地盤技術論のすすめ―地盤技術者のものの見方・考え方―　栗原則夫・今村遼平　共著（足立勝治）/お詫び

学協会・研究会報告 ……7
国際シンポジウム「インド亜大陸のテクトニクス」（TOIS）と付属巡検参加報告（吉田　勝）

地学教育のページ ……9
国際地学オリンピック日本委員会組織委員会が発足/第115年学術大会　教員向け見学旅行のご案内「地学教育の素材としての男鹿半島」/小さなEarth Scientistのつどい～第６回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～参加校募集

支部コーナー ……10
第２回研究発表会「関東地方の地質」および支部総会のご案内

院生コーナー ……11
「わくわくドキドキ　化石発掘 in 獅子島」参加報告（中谷大輔）

「地質の日」イベント紹介 ……13

2008年会費払い込みについて ……13

学会記事 ……14
2007年度第11回理事会議事録/2007年度第４回定例評議員会議事録

CALENDAR ……18

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

■秋田大会就職支援プログラム■

就職を希望する学生，若手研究者と民間企業・団体，研究機関等との情報交換を目的として，昨年度から始まった新しい取り組みのひとつで，各企業等からのブース出展と説明会形式の紹介プレゼンテーションに参加していただくプログラムです．ブースでは企業の担当者に直接質問や相談ができます．参加する企業は，地球科学関連の知識・技術をベースに，社会基盤整備に関わる調査・計画・設計・施工・維持管理，ソフトウェアやハードウェアの開発，および資源開発などを行う企業などで，今回は鉱物科学会関連の企業の参加も予定されています．会員・非会員を問わず参加できますので，学生を指導しておられる大学教職員を含め，多くの方々の参加を歓迎します．

１）**日時：2008年９月21日（日）**（本年度は会期中に行います）
２）場所：学内メイン会場を予定しています．
３）参加対象：年会参加者（会員・非会員を問いません）
４）参加申し込み：事前の申し込みは不要です．
５）出展申し込み：賛助会員の企業などには５月中にご案内と申込書をお送りします．
６）参加費：無料
７）問い合わせ先：日本地質学会事務局　細川
TEL　03-5823-1150　e-mail main@geosociety.jp

お知らせ

秋田大会関連プレスリリースについて

秋田大会での講演や行事について，９月上旬にプレス発表を行う予定です．昨年の札幌大会では多数のメディアに取り上げられ，会員の皆様の研究成果が多いに注目されました．秋田大会で発表される予定の案件で，**学会からのプレス発表をご希望の方は，８月２５日（月）までに学会事務局（journal@geosociety.jp）にご連絡願います．**全ての案件をプレス発表することはできませんが，社会への情報発信として特筆すべき成果は積極的に公表して行きたいと考えております．会員の皆様におかれましては，プレスリリース解禁日をお守りいただき，公平かつ効果的な情報発信にご協力願います．不明な点は学会事務局までお問い合わせ願います．

（日本地質学会広報委員会）

事務局営業カレンダー　■ お休み

6月/June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月/July

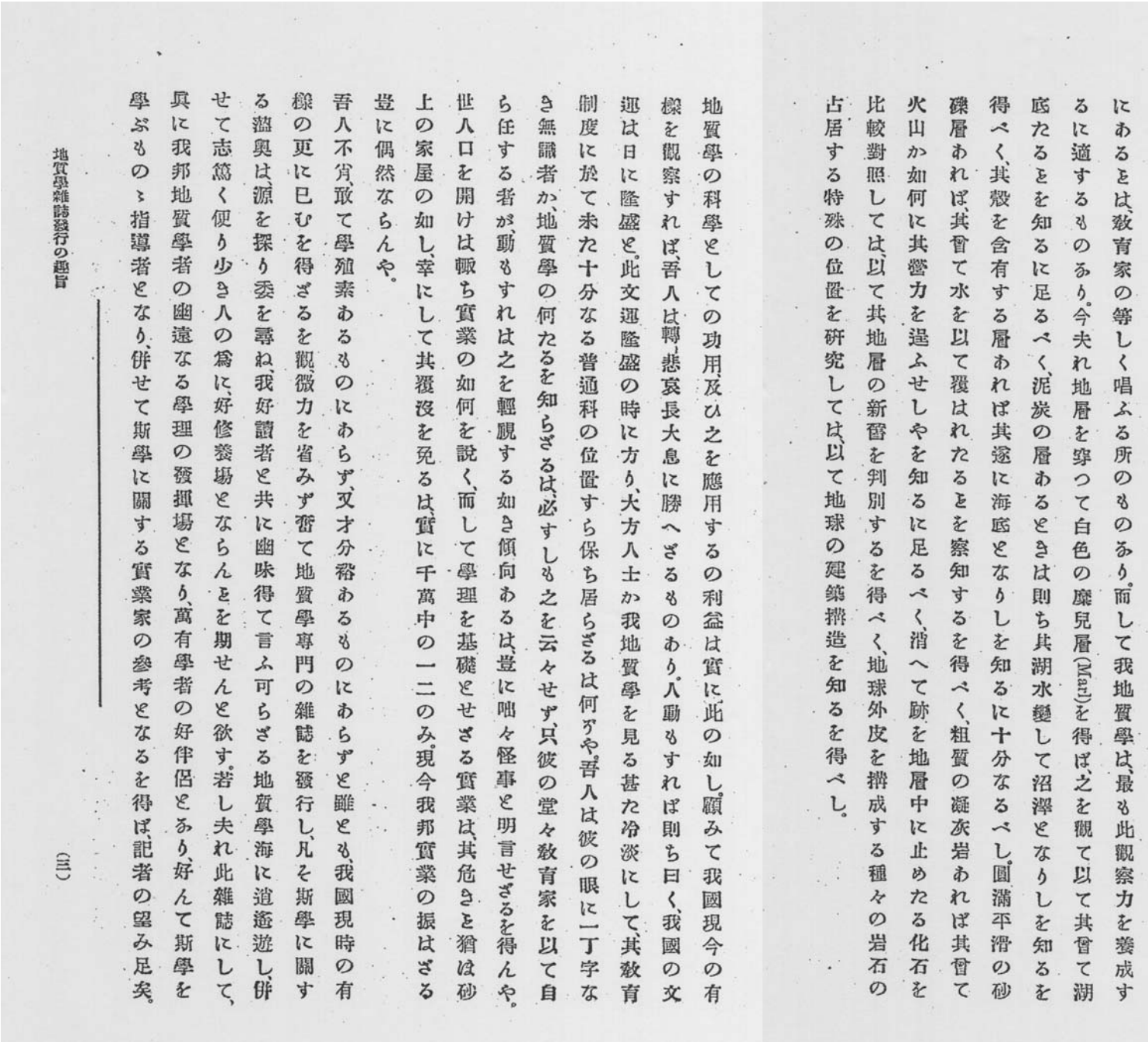
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

広告一部取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

表紙紹介

地質学雑誌　第１巻　第１号「地質学雑誌発行の趣旨」

日本地質学会は，1893年５月（記録では第１土曜日となっていて日は特定されていませんが，５月13日にあたります）東京地質学会として創立し，続く10月地質学雑誌の第１巻第１号が発刊されました．巻頭には３ページにわたり地質学雑誌発行の趣旨と題した序文が掲載されました．地質関係の組織・学会が発起人となって５月10日が「地質の日」と制定されたこの機会に，会員の皆様に日本地質学黎明期の歴史の１ページとしてご紹介いたします．



地質學雜誌發行の趣旨

地質學の科學としての功用、及ひ之を應用するの利益は實に此の如し。顧みて我國現今の有樣を觀察すれば、吾人は轉悲哀長大息に勝へざるものあり。人動もすれば則ち曰く、我國の文運は日に隆盛と。此文運隆盛の時に方り、大方人士か我地質學を見る甚た冷淡にして、其教育制度に於て未た十分なる普通科の位置すら保ち居らざるは何ぞや。吾人は彼の眼に一丁字なき無識者か、地質學の何たるを知らざるは、必すしも之を云々せず、只彼の堂々教育家を以て自ら任する者が、動もすれは之を輕視する如き傾向あるは、豈に咄々怪事と明言せざるを得んや。世人口を開けは輙ち實業の如何を說く、而して學理を基礎とせざる實業は、其危きを猶ほ砂上の家屋の如し、幸にして其覆沒を免るは、實に千萬中の一二のみ。現今我邦實業の振はざる豈に偶然ならんや。

吾人不肖、敢て學殖素あるものにあらず、又才分裕あるものにあらずと雖とも、我國現時の有樣の更に已むを得ざるを觀、微力を省みず奮て地質學專門の雜誌を發行し、凡そ斯學に關する蘊奥は、源を探り委を尋ね、我好讀者と共に幽味得て言ふ可らざる地質學海に逍遙遊し、併せて志篤く便り少き人の爲に、好修養場とならんとを期せんと欲す。若し夫れ此雜誌にして、眞に我邦地質學者の幽遠なる學理の發揮場となり、萬有學者の好伴侶となり、好んて斯學を學ぶものゝ指導者となり、併せて斯學に關する實業家の參考となるを得ば、記者の望み足矣。

にあるとは、教育家の等しく唱ふる所のものあり。而して我地質學は、最も此觀察力を養成するに適するものあり。今夫れ地層を穿つて白色の糜兒層(Marl)を得ば、之を觀て以て其曾て湖底たるとを知るに足るべく、泥炭の層あるときは則ち其湖水變して沼澤となりしを知るを得べく、其殼を含有する層あれば其遂に海底となりしを知るに十分なるべし。圓滿平滑の砂礫層あれば、其曾て水を以て覆はれたるとを察知するを得べく、粗質の凝灰岩あれば其曾て火山か如何に其營力を逞ふせしやを知るに足るべく、消へて跡を地層中に止めたる化石を比較對照しては、以て其地層の新舊を判別するを得べく、地球外皮を構成する種々の岩石の占居する特殊の位置を研究しては、以て地球の建築構造を知るを得べし。

(三)

1893年（明治26）10月発行

地質學雜誌第壹號

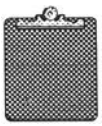
地質學雜誌發行の趣旨

地球上の現象は何ぞ其變化の頻繁にして端倪すへからざるの甚しきや。試みに杖を海岸に曳かば、彼の澎湃として岸を撲つの銀濤か年々幾尺の陸地を減削するを見ん、少しく眼を轉せば、同一の波浪か岸邊に向ひ、砂礫を運び泥土を沈澱し、多少陸地の面積を增加するを見ん。同一の波浪にして或は陸地の面積を減殺し、或は之を增加す、奇にあらずして何ぞや。忽ちにして爆然破裂し、家屋を火にし田野を灰にし、數千百の人命を舉げて、悉く之を黑烟一團の下に委するは、是豈に火山の破裂にあらずや。一朝の際に幾多の村落を埋め、幾百の家屋を沒し、幾千の生靈を殺し、幾萬の蒼生を傷かしむるは、是れ豈に地震にあらずや。此の地震と火山破裂とは、深山大澤擇ぶ所無く、高低險夷甄つ所無く、地球上至る所に其外觀の變化を來すものなり。嗚呼地球上の現象は何ぞ其變化の頻繁にして端倪すへからざるの甚しきや。此の如き糾紛錯雜の變化をして一定の規律を發見し、此の如き森羅萬象を研究するは地質學者の自ら任ずる所にして、要するに地質學は地球の發育を研究するの學科あり、果して然らば地球上に住居する吾人々類にして多少地質學の智識あくして可ならんや。地質學は決して一種專門學者の專有物とすへきものにあらざるなり。

浦賀の一砲忽焉として吾邦人の夢を醒ませしより、我邦物質的文明は駸々として進んで底止する所を知らず、隨て自然物を利用して吾人々類の稗益に供するもの擧げて數ふへからず。曰く製鐵、曰く鑛山、曰く炭坑、曰く土木、而して此等の諸事業は悉く其基礎を我地質學に求めざるへからず。若し夫れ地質學の知識なくして製鐵事業を起し、採鑛術に從事し、石炭を採掘せんと欲する者あらば、是れ豈に解剖學を學ばずして醫術に從事し、化學を知らずして製藥業を取らんとするものにあらずや、其妄たる辨ぜずして自ら明ならん。

吾人か地質學に重きを置く所以は、必ずしも其應用の結果如何のみを云ふにあらざるなり。蓋し今日の學生をして最も其力を盡さしめざる可らざるは、實に事物觀察の力を養成する

地質学雜誌は，１巻１号から最近号までを，国立情報学研究所論文情報ナビゲータシステム（CiNii：http://ci.nii.ac.jp/）より無料で閲覧していただけます．
また，「地質の日」については，http://www.gsj.jp/geologyday/をご参照ください．



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

2008年度日本地球化学会年会のお知らせ

共催：日本地質学会ほか
会期：2008年９月17日（水）～19日（金）
会場：東京大学教養学部12・13号館（東京都目黒区駒場3-8-1）

講演申込，予稿原稿受付：今回は同時に行います．予稿原稿の提出を行わないと講演申込は完了しません．年会web page（http://www.geochem.jp/meeting/）からのみ受け付けます．**６月９日（月）14時～７月14日（月）14時締切**．講演要旨の書き方は，本ニュース最後にある「講演要旨作成上の注意」または上記web pageをご覧ください．web pageからの申込が困難な場合は，下記の問い合わせ先に，締切の１週間前までにご連絡ください．

参加予約申込：年会web page（http://www.geochem.jp/meeting/）から，指示に従って申し込んでください．**６月９日（月）14時～８月29日（金）14時締切**．
参加登録費：（講演要旨集１部含む）
予約：一般会員5,000円，学生会員3,000円，会員外7,000円，会員外学生4,000円
当日：一般会員6,000円，学生会員4,000円，会員外8,000円，会員外学生5,000円
＊なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します．
懇親会：９月18日学会賞等受賞講演終了後，生協食堂にて．
予約　5,000円（学生3,000円），
当日　6,000円（学生4,000円）．
講演要旨集：3,000円／部（当日手渡し）（後日郵送の場合は3,500円／部）．

予約申込による参加登録費・懇親会会費・講演要旨集代金の支払い方法：これらのお支払いは，年会web pageから，クレジットカードによるオンライン決済でお願いいたします．クレジットカードによるお支払いが困難な場合は，下記の問い合わせ先に，締切の１週間前までにお問い合わせください．

年会事務局
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院理学系研究科
地殻化学実験施設内
Fax：03-5841-4119
e-mail：gj2008-help@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

詳しくは，年会web page（http://www.geochem.jp/meeting/）をご参照ください．

地球地図フォーラム2008

開催日　**2008年６月５日（木）～７日（土）**
会場　国際連合大学（東京都渋谷区神宮前5-53-70）
参加費無料（要事前登録）

プログラム
６月５日（木）
10：00　開会
基調講演：Prof.D .R. Fraser Taylor（地球地図国際運営委員会委員長）
11：45　休憩
13：15　特別講演：月尾嘉男氏（東京大学名誉教授）
講演：国際連合統計部長　ほか
18：30　レセプション（有料）

６月６日（金）
９：00
セッション１：地球地図の整備
セッション２：広域デジタル地理情報の作成と地球環境分野への利用
セッション３：地球環境分野への地球地図・広域デジタル地理情報の利用
12：30　休憩
14：00
セッション４：多様な分野への地球地図・広域デジタル地理情報の利用
パネルディスカッション：テーマ「地球地図第２版整備に向けて」
17：05　閉会

６月７日（土）
13：00～16：00
エクスカーション：「地球地図の学校」を参観
場所：慶応義塾普通部（横浜市）

連絡先
地球地図国際運営委員会事務局
電話：029-864-6910　FAX：029-864-6923
E-mail：sec@iscgm.org
http://www.gmforum2008.org/top.html

IUMRSアジア国際会議 2008

会期：2008年12月９日（火）～13日（土）
場所：名古屋市国際会議場（名古屋市熱田区西熱田町１番１号）
主催：日本MRS（Materials Research Society of Japan（MRS-J））

概要：本IUMRS-ICA 2008は，材料研究の最先端で活躍する研究者や技術者を世界中から広く募集・招聘し，横断的研究交流を図る，さらに，あらゆる材料研究分野に焦点を当て，アジアの材料研究を世界に向けて強く発信する，なお，本会議は40のシンポジウムからなり，全参加者数は1500人以上となる見込みである，詳細はホームページを参照されたい．

アブストラクト締切：**2008年６月30日（月）**
注：webからの提出となります

事前参加登録締切：**2008年11月17日（月）**

問い合せ先：
Secretariat for IUMRS-ICA2008 Inter Group Corporation 2-38-2, Meieki, Nakamuraku, Nagoya 450-0002, JAPAN
Phone : +81-52-581-3240
Fax : +81-52-581-5585
E-mail : iumrsica2008@intergroup.co.jp
http://www.iumrs-ica2008.jp/index.html

サマー・サイエンスキャンプ2008参加者募集

先進的な研究施設や実験装置等を有する日本各地の大学・公的研究機関・民間企業49会場）が夏休みに高校生等を受け入れ，ライフサイエンス，情報通信，環境，ナノテクノロジー・材料，エネルギー，社会基盤，製造技術，（宇宙・海洋等の）フロンティア，農学，地球科学等の分野において，第一線で活躍する研究者・技術者等から直接講義や実習指導が受けられる科学技術体験合宿プログラムです．募集要項はWEBサイトから入手可能です．

開催日：2008年７月22日～2008年８月30日の夏休み期間中の２泊３日
参加費：無料（自宅から会場までの往復交通費は参加者負担）
応募締め切り：６月25日（水）＜必着＞
主催：独立行政法人 科学技術振興機構
問い合わせ
サイエンスキャンプ事務局：
財団法人　日本科学技術振興財団
TEL：03-3212-2454　FAX：03-3212-0014
URL：http://spp.jst.go.jp

堆積学スクールOTB2008

日本堆積学会では，恒例の堆積学スクール・オン・ザ・ビーチを7月18-21日に開催いたします．会場は北海道東部の厚岸町です．このスクールは，堆積学の普及とレベルアップを目的とした学習の場です．多方面からの参加をお待ちしています．

１．テーマ：「タービダイトと海底扇状地のダイナミクス」

今回は地形ダイナミクスの第一人者であるGary Parker教授をイリノイ大学からお招きし，混濁流（Turbidity current）とタービダイトのダイナミクスと海底扇状地の形成過

程について講義していただきます．水理学一般の基礎として堆積学で扱う水理パラメータの物理的意味を学ぶとともに，混濁流の水理学とそれに関連する堆積構造について，講義と野外観察を通じて理解を深めます．地質学，地形学，堆積学の初学者から上級者までを対象としています．中学高校の理科教員やプロの堆積研究者など，一般および専門家の方々の参加も歓迎します．

2．講師
レクチャー：Gary Parker（Univ. of Illinois）
巡検案内：成瀬　元（千葉大学）

3．日程：**2008年7月19日（土）～21日（月）（集合は18日夜）**
途中からの参加も可能．追加オプションとして，希望者は22日の浦幌層群巡検にも参加可能．

4．講演会場・宿泊先
北海道立厚岸少年自然の家
〒088-1113　北海道厚岸郡厚岸町愛冠6番
Tel：0153-52-1151　Fax：0153-52-1152

5．定員：50名（定員になり次第締め切り）

6．参加費
学生・院生6000円，一般9000円．オプション巡検参加費は3000円．（食費・宿泊費・テキスト代込み）金額は参加人数により多少変わります．現地にて徴収．

7．申し込み
6月25日（水）までにメールで申し込んで下さい．件名は「堆積学スクールOTB2008申し込み」とし，本文中で下記を明記して下さい．（1）氏名（2）性別（3）所属先（学生・院生の方はそのことも明記してください）（4）到着日・出発日（事情により別の宿泊施設を希望する場合は 明記してください）
申し込み先：naruse@faculty.chiba-u.jp

9．問い合わせ先：
日本堆積学会行事委員会
成瀬　元（千葉大，naruse@faculty.chiba-u.jp）
横川美和（大阪工大，miwa@is.oit.ac.jp）

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻公募

1．職種および人員：助教1名
2．採用条件：任期5年，1回更新可能
3．専門分野：本専攻の中期計画の目標「地球惑星進化素過程の解明と地球環境の将来像の予測」に沿い，地球惑星システムにおける地球環境，地球古環境変遷，生命の進化に関連した分野
4．応募資格等：（1）博士の学位を有すること　（2）本専攻の現研究分野グループ（地球環境進化学，地球造構学，資源・地球惑星物質学，地球惑星内部物理学，同位体地球惑星科学，表層環境地球化学）を基盤として意欲的に研究にあたり，専攻の発展に大きく貢献しうること　（3）学部および大学院の授業を担当し，学部生・大学院生の教育と研究指導に意欲的であること（4）本専攻で実施している「大学院教育改革支援プログラム：世界レベルのジオエキスパートの養成」（http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp/~gp/）に積極的に貢献しうること
5．**応募締切り：2008年6月20日（金）必着**
6．着任予定時期：2008年9月1日以降できるだけ早い時期
7．提出書類：（1）履歴書　（2）研究業績リスト（必ず，①査読有り原著論文，②査読無し原著論文，③総説（review），④著書，⑤その他に区分して記述すること）（3）主要な論文の別刷（またはコピー）5編以内　（4）これまでの研究概要と着任後の研究計画（A4用紙1～2枚程度）（5）地球惑星科学教育に対する抱負（A4用紙1～2枚程度）　（6）研究費等外部資金獲得の実績　（7）応募についてご意見をいただける方（2名程度）とその連絡先
8．送付先および問合せ先：
〒739-8526　東広島市鏡山1-3-1
広島大学大学院理学研究科
地球惑星システム学専攻
助教選考委員会委員長　嶋本　利彦
Tel.: 082-424-7474，Fax.: 082-424-0735
E-mail: shima007@hiroshima-u.ac.jp

当専攻の教育研究活動はHPを参照下さい．
http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp/~info/GS/index.html

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

(財)住友財団研究助成募集

●基礎科学研究助成
対象：理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）
応募資格：若手研究者（個人またはグループ）

助成金額：（1）助成金の総額　1億4,000万円　（2）1件当たりの助成額　最大500万円　（3）助成件数の目処　100件程度　（4）助成期間　1年間　但し希望される場合は更に6ケ月間を限度として延長可．

●環境研究助成
対象：一般研究＞環境に関する研究全般（分野は問いません）．課題研究＞募集課題「新たな政策提言に資する環境研究」
応募資格：制約はありません．（個人またはグループ）

助成金額：（1）助成金の総額　1億円（一般研究8,000万円，課題研究2,000万円）　（2）1件当たりの助成額　一般研究　最大500万円　課題研究　最大1,000万円　（3）助成件数の目処　一般研究50件程度　課題研究2件　（4）助成期間　一般研究1年間　但し希望される場合は更に6ケ月間を限度として延長可．課題研究2年間　延長不可

応募方法：住友財団のホームページ（http://www.sumitomo.or.jp/）から，募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム（PDF WORD）をダウンロードしていただくこともできますが，申請書提出は財団まで　郵送ください．

応募締切日：2008年6月30日（月）必着

連絡先
〒105-0012　東京都港区芝大門1-12-16　住友芝大門ビル2号館
財団法人　住友財団（担当　中山）
TEL 03-5473-0161　FAX 03-5473-8471
E-mail:sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
URL:http://www.sumitomo.or.jp/

文部科学大臣表彰科学技術賞・若手科学者賞　候補者推薦

学会推薦締切：**2008年6月30日（月）必着**

本表彰は、文科省が推薦依頼を出した機関からの推薦のみ受付となります．個人から募集は行っておりませんのでご注意下さい．

詳しくは文部科学省HPをご参照ください．
http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/2008/08050813.htm

紹　介

地盤技術論のすすめ
―地盤技術者のものの見方・考え方―

栗原則夫・今村遼平　共著

2008年４月20日初版発行，鹿島出版会，
Ａ５版，251頁，定価2,940円（税込み），
ISBN978-4-306-02398-7

本書は，地盤技術者である地質屋と土質屋の二人が，住居・道路・鉄道・港などの施設がつくられる地盤を対象にした地盤技術を通して，地盤工学の課題と今後の目指すべき方向を整理したものである．専門分野の違う技術者の協働による知恵の再構築の成果と言える．その特徴は，地質屋と土質屋のものの見方を通して現状把握を行い，それぞれの地盤技術に対する取組の反省点を客観的に示して，地盤工学課題と今後の目指すべき方向まで提起していることにある．論点は，土質工学の課題として「地質学と土質工学の融合」「設計論の確立」「現場経験の方法とあり方」の３点をあげて様々な角度から考察している．その中で筆者らは，地質調査と土質調査の結果は“設計・施工に使う”という目的を明確にし，“地質屋と土質屋が協働すること”が必須であると指摘している．それは地質学的な認識に土質力学的な認識と設計・施工の経験的な認識を加味した総合的な地盤のとらえ方が基本にあって，はじめて本物の地盤技術となることを示している．実務経験の豊富な筆者らが示す「地盤技術者とは」「地質屋と土質屋のものの見方・考え方」「地盤の見方―認識論―」「設計の考え方―設計論―」は読んでいても納得できる点が多くある．以下に本書の概要を示す．

第１章「自然科学と技術の方法」では，自然科学との関係で技術の特徴を整理し，その歴史的発展形としてのエンジニアリングが現在の技術であること，エンジニアリングの学問としての形が工学であること，そして科学・技術・工学の方法は同型であるが，重点の置きどころが違うことなどについて述べている．本章は付録「問題解決の論理学」と併せて読むと理解しやすいと思われる．

第２章「地盤技術者のものの見方・考え方」では，地盤技術者が現場で問題解決にあたるとき，どのように現場を見て，どのように考え，行動しているのかについて述べている．具体的には，筆者ら二人が実際に経験した例を取り上げて，それぞれが地質屋と土質屋の立場から論じている．地盤技術者のものの見方・考え方を整理すると，“見方”というのは，対象とする地盤を認識する方法のことであり，“考え方”というのは，見方によって得られた知識を利用して設計・施工する際の思考方法のことである．本章は二人の経験が，もっともページ数を割いて調査事例と設計・施工事例を中心に記述されており，地質調査業に従事している会員には気づきの多い内容となるだろう．

第３章「地盤技術者の地盤の見方」では，地盤技術者が地盤を認識する方法について論じている．大切なことは，地盤技術においてはあくまでも設計・施工のために地盤を認識するということである．地質学や土質力学という学問は，認識によって自然の真理を解明することそれ自体が目的とされるという点で，地盤技術とは大きな違いがある．この章では，地質学や土質力学の科学的知識と設計・施工の経験的知識を総動員した総合的な地盤の見方について述べている．地質屋出身の地盤技術者には，地盤の見方とそのプロセスが記述されているので多いに参考となる．

第４章「地盤技術者の設計の考え方」では，地盤技術における実際的な設計法について論じている．「設計は問題解決の過程であり，その本質はアブダクション（仮説発想推理）による総合である」という考え方にもとづいて，設計法を分析型設計法と総合型設計法に分類し，地盤技術の場合の具体的な過程について述べている．また地盤技術の特徴として，設計・施工を通じた「フィードバック制御」にもとづく「観測工法」と「人と知識のマネジメント」が不可欠であるという立場から，その考え方について述べている．事例で扱った軟弱地盤上の盛土設計法は，企業活動の中でどのように組織的にナレッジを作り出し，活かしていくかを追及するナレッジマネジメントを活用した情報化設計施工法として紹介されている．

第５章「土質工学の現状と問題点」は，前章までの地盤技術者のものの見方・考え方にもとづいて土質工学について論じている．問題点として，(1) 土質工学において，その基礎学問の一つとされる地質学が力学体系の中に埋没してしまって，地質学の位置づけが明確になっていないこと，(2) 土質工学は地盤技術に関する学問であるにもかかわらず，地盤技術の主要な過程である設計論を取り扱えていないこと，の二点を指摘している．そして，そうした視点から現在の地盤工学体系の問題点について論じている．この中で筆者らは，土質工学を「土質力学」「土木地質学」「設計・施工法」の３つの基本的要素からなる概念で体系を整理している．その基本的要素ごとに現状と問題点が解説されているので，理解しやすくなっている．

第６章「地盤技術から土質工学を考える」は，地盤技術に関する学問としての土質工学の今後目指すべき方向について，地盤技術の立場から提案をしている．その中には，日本技術者教育認定機構（JABEE）の理論と実務の両方に精通したほんもののエンジニアを育てていこうという機運が，産官学を通じて熟することが期待されることにも触れている．

付録として，本書の中で出てくる論理学の用語を解説する「問題解決の論理学」が記述されている．具体例を示して説明されているので，読者に親切である．

本書を通読して感じたことは，地盤技術において地質屋の果たすべき役割を改めて理解できたこと，専門分野の違う技術者が同じ目的のもとで協働して知恵の再構築をしていくことが必要であることの２点である．もちろん，“地盤技術はどうあるべきか”を考えさせられたのはいうまでもない．

日本地質学会で民間企業に所属している会員は，地質調査業やコンサルタントに所属する方が大半である．多くの会員が地盤技術に係る業務に従事していると思われる．“地盤技術とは何か”を考える適切な書として，ご一読をお薦めする．

（足立勝治）

お詫び
ニュース誌４月号（Vol.11, No. 4, p.5）掲載のリンネと博物学自然誌科学の源流（千葉県立中央博物館編）の紹介原稿において，文末に紹介原稿執筆者である矢島道子氏の氏名が掲載されていませんでした．お詫び申し上げます．
ニュース誌編集委員会

学協会・研究会報告

国際シンポジウム「インド亜大陸のテクトニクス」（TOIS）と付属巡検参加報告

吉田　勝（ゴンドワナ地質環境研究所）

表題の国際シンポジウム（International Conference on Tectonics of the Indian Subcontinent, TOIS）が３月３日から６日にかけて，ムンバイのインド工科大学ボンベイ校（IIT Bombay）で開かれた．IITボンベイ校地球科学教室主催，国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）と国立ワディアヒマラヤ地質研究所が共催であった．シンポジウムに付属してガルワルヒマラヤ（プレシンポジウム），デカントラップ（ミドシンポジウム），アラバリ山地（ポストシンポジウム）の野外巡検も行われた．以下にシンポジウムと，私が参加したプレとミドシンポジウム野外巡検の概要を報告する．

シンポジウムはインド工科大学ボンベイ校創立50周年と，地球科学教室発足25周年記念事業のひとつとして行われた．シンポジウム組織委員会（委員長：Prof. T.K. Biswal）はインド工科大学ボンベイ校地球科学教室教員を中心として，顧問委員会はインド各地や国外の著名なインド科学者らで構成されていた．タイトルから予想されるように，シンポジウムのテーマはインド亜大陸及び関連の陸海地域を対象とし，地球物理学を含む地球科学の全分野に及んでいた．

シンポジウム参加者は主催者発表によると216人で，要旨集に載せられた講演数は159題，要旨集のリストでみられる発表者は150人であったが，プログラムに登録されたのは115講演であった．分科会ごとの発表数は，インド全般：12題，ヒマラヤ：13題，北インド：６題，北西インド：８題，西インド：14題，北，中央及び北東インド：11題，南インド：14題，インド周辺海域：14題，近隣地域：３題，その他：７題で，他に共通基調講演８題とポスター８題があった．シンポジウムサーキュラーでは海域とヒマラヤ地域の発表が群を抜いて多かったが，最終的に大きく調整されたようである．参加者の内訳はIITボンベイの学生を含め，当然にインド人が圧倒的多数で，全国から代表的な研究者が集まっていた．ほかに日本（６），米国（３），英国，オーストラリア，台湾，韓国，イタリー，カナダ，エチオピア，ドイツ，スリランカ（各１）など，11カ国からの参加者があった．シンポジウムの要旨・拡張要旨集は，260ページのIAGR国際会議シリーズNo.5として発行され，参加者に配布された．

３月３日，４日と６日が学術シンポジウムで，５日はミドシンポジウム巡検だった．学術シンポジウムは３日間を通して３つの会場で11の分科会が平行して行われたが，朝の１時間半～２時間は第一会場で分科会共通基調講演２～３題があった．分科会のトピックスは上のように第一に地域別であったが，その中ではほぼ分野ごとにグルーピングされていた．しかしこの分科会構成は必ずしも成功せず，パラレルセッションの同時間帯に聞きたい講演が重なることが少なからずあった．以下にシンポジウムの内容を日を追って記す．

３月３日　開会式は組織委員長T.K. Biswal教授のあいさつに引続いて，IITボンベイ学長Ashok Misra教授，国際ゴンドワナ研究連合の吉田，ワディアヒマラヤ地質研究所長（代）のA.K. Dubey教授らの挨拶があった．続いて学術シンポジウムに入り，D.B. Phatakの座長により，共通基調講演２題：R. Searle（英），Seafloor spreading in regions of low effusive magmatism-South west Indian Ridge and elsewhereと R. Bastia（インド），Deep-sea basins of east coast of India: Key to future petroleum reservoirsがあった．30分のティーブレークとポスターセッション（６題）の後，１時半までの午前中セッションは３分科会に分かれて行われた．以下に各分科会を「分科会名」と（座長名）と共に簡単に示す．「インド全般」（A.K. Dubay）では，S.K. Bhushan，S.K. RayとA.B. Royによる３題の基調講演の後，10題の一般講演が行われた．「インド周辺海域」（D. GhoshとR. Bastia）ではM. Rajaram，S.K. BiswasとD. Mukhopadhyayによる３題の基調講演と，一般講演が12題があった．「インド周辺地域」（C. DobmeierとC.W. Oh）ではC.W. Oh，Mona Lisa，W. KehelpannalaとS. Mohantyによる4題の基調講演と，一般講演が７題があった．

写真上．激論後の友情の証に写真に納まった吉田とJ. Meert．写真下．ワディアヒマラヤ地質研究所ゲストハウスの前で，左からK.S.Bist,吉田，W. KehelpannalaとS. Paul

３月４日の共通セッションはS.K. Valdia座長により，共通基調講演３題：M. Santosh（日本），Thermal regimes and fluid flux in the Proterozoic Earth，Bor-ming Jahn（台湾），Accretionary orogens and growth of the continental crust from Neoproterozoic to Recent: Nd-Sr isotopic evidenceとM. Unsworth（カナダ），Crustal flow beneath the Himalaya and Tibetan plateau? New evidence from magnetotelluric dataが行われた．ティーブレークとポスターセッション（２題）のあとは３分科会に分かれた．「ヒマラヤ地域」（A.B. RoyとW. Kehelpannala）ではA.K. DubeyとS. Dasguptaによる基調講演２題と，一般講演が11題があった．「南インド」（M. Santoshと Bor-ming Jahn）ではT.R.K. Chetty，T. Tsunogae，Chris ClarkとM. Jayanandaによる４題の基調講演と，一般講演が10題あった．「北，中央，西インド」（M. Unsworth,とT. Kusky）では V.K. SinghとS. Senguptaによる２題の基調講演と，一般講演が13題あった．

ミドシンポジウムツアーのあと３月６日の共通セッションは吉田の座長で以下の３題の基調講演：K.S. Valdia（インド），Rivers of southern Asia: geodynamic perspective and environmental implications，M. Talwani（米），Some recent studies in the Indian OceanとJ.G. Meert（米），India's changing

写真左から．モハンドウ数km南西のカジュラホ川に露出するヒマラヤ前縁衝上断層（HFT）直上のシワリーク層（崖の左端がHFT）．ムソーリの主境界衝上断層（クロール衝上断層）で，左手前の露頭がクロール層，向こうの丘はシワリーク層群を覆うドウーン礫層．海岸の見事な柱状節理の露頭，中央左寄りはT.K. Biswal教授

place in global Neoproterozoic reconstructions: New geochronologic constraints on key paleomagnetic polesがあった．ティーブレークとポスターセッションのあと，「グローバルテクトニクス等」（S.K. Acharyya）でT. KuskyとM. Yoshidaによる基調講演２題と，一般講演が６題，「北西インド」（K.C. Sahu）ではB.S. PaliwalとS.K. Haldarによる基調講演２題と，一般講演が６題，「東インド」（T.R.K. Chetty）ではC. DobmeierとS.K. Acharyyaによる基調講演２題と一般講演５題があった．

ランチは２時過ぎで，３時ころから閉会式になった．主催者らのごく簡単なあいさつのあと，T.K. Biswalの司会で参加者がつぎつぎと感想を述べさせられた．裏方を担った何人かの学生達もでてきて，みなの拍手を浴びた．

４日間のシンポジウム全体を通じて，インド亜大陸に焦点をあてたシンポジウムらしく，インド全地域からの最新の研究やレビューが多く，インド亜大陸の地球科学に大きく貢献するものと思われる．コロンビア，ロディニア，ゴンドワナの超大陸におけるインドの位置についての最新の考えや問題点も紹介され，きびしい質問や議論があった．例えば米国のJ. Meertは，ネオ原生代にはインドとオーストラリアが離れていたこと，従ってその時期には東ゴンドワナは存在しなかったという新しいテクトニクスモデルを，ごく最近に行われたインド北西部のマラニ火成岩類の放射年代再研究の成果を踏まえて主張した．このモデルは東ゴンドワナがメソ原生代に形成したという従来のモデルを否定するもので，話題を呼んだ．Meertはこのトピックスを1995年から発表し続けており，2000年ころからは世界の革新的地球科学者らの多くに採用されつつある．しかしインドでは，ずっと受け入れられて来ていないという経緯があり，Meert本人がこれだけ多くの第一線のインド研究者らを前にして話したのは，多分始めてであったと思われる．彼の講演にはとくに多くの質問，議論が集中した．Meertの講演の後，引続く基調講演で私が彼の新しいモデルの根拠となる古地磁気データの信頼性を議論し，その後のティーブレークでさらに議論が行われた．最終的に「いずれにしても新しいモデルはまだ確立したものではなく，クラシックモデルと同様に，将来一層の良質のデータと詳しい吟味が必要である」ことで両者完全に一致し，まずは友好的な幕引きとなった（前頁の写真）．

その他，T. Kusky，M. SantoshやV.C. Tewariらが，パレオ原生代のコロンビアやメソ原生代のロディニア超大陸について，各大陸片の変成帯の特徴や年代を鍵に接合具合を示したが，どれも充分に確定できるものではなく，これらの古い超大陸の確からしい復元を得るのは未だ相当先になるという感じを参加者に与えたのではないだろうか．

そのような超大陸テクトニクスの不確かな内容にくらべて，発表の大部分を占めたインド各地の研究発表は，さきに述べたように地質や地球物理学の新しい野外データに裏打ちされた新知見が多く，インド亜大陸の地球科学に確かな進歩をもたらすものと思われた．

一方C. Dobmeier，C. Clark，T. Tsunogaeと門下生等，国外研究者らによる各地の最近の詳しい研究は，インド地質学会にとって大きな刺激になると，閉会式で多くの参加者らから評価された．しかし外国研究者らはむしろ，インド各地の研究者らのフィールドを踏えた詳しい研究が確実に進みつつあることに，一種の脅威と，羨ましさを感じたのではないだろうか．日本も，日本列島をテーマにした日本での国際シンポジウムを何年かに一度ずつ持つと，良い刺激を得るだろうと思われた．

シンポジウム全体を通じて学部～大学院学生の活躍が目立った．学術シンポジウムでの発表や会場の設営はもとより，夜のエンタテイメント（演武・演芸会）や巡検にも積極的に関わり，或いは国外研究者との交流にも一部で熱心に行われ，印象的であった．

シンポジウム付属プレ巡検は，デリーの北北東約200ｋｍのデラドゥン市の国立ワディアヒマラヤ地質研究所を基点にして実施された．巡検は同研究所員のS. PaulとK.S. Bist博士らが案内役だった．参加者は３人だけで，スリランカのW. Kehelpannalaと私，それに私の案内役としてIITが送ってくれた学生１人であった．

巡検は２日間で，レンタルのジープで研究所からの日帰りツアーを行った．１日目はデラドゥンを通る南北20kmほどのセクションを道路に沿ってMussoorie町まで，ヒマラヤ前縁衝上断層，シワリーク帯，主境界衝上断層とレッサーヒマラヤ帯を見学した．パレオ原生代のDamtha，ネオ原生代のSimla，ベンディアンのKrol，カンブリア紀のTalなど，ガルワルヒマラヤの主要な岩層を見て感激した．

２日目はガンジス河に沿うRishikesh～Deoprayagのコースでパレオ原生代～始新世の地層が境界不明で出現するレッサーヒマラヤ帯を見学した．２日間の巡検を通じて，衝上断層はもとより，各地質帯中に南フェルゲンツの中～小構造がよく発達するのが印象的であった．

ミドシンポジウム巡検は会場のIIT周辺のデカントラップだった．IITの学生多数を含めて100人以上の参加者らが２台のバスに分乗した．案内役はIITのH.C. Sheth， M.S. Bodas，G.N. Jadhav博士らで，IIT構内の玄武岩質岩層から，西海岸付近のトラカイト，流紋岩，閃緑岩体，など多様な岩相があることに驚かされた．

ところで，シンポジウムおよび付属巡検には多くの経費がかかったと思われる．これはインドでは，シンポジウム参加者の多くが主催者側から参加経費補助を受けることが多いためである．このため，IITボンベイ校のほか，大きく発展しつつあるインドの諸企業，とりわけ卒業生の関係する企業等からの経費援助が大きく寄与したようである．私自身もIITボンベイから参加経費の一部を補助して頂いた．厚く感謝したい．

地学教育のページ

国際地学オリンピック日本委員会組織委員会が発足

現在第１次選抜（参加者319名，通過者22名（中学生チャレンジャー１名を含む））を終え，５月31日の第２次選抜（実技・面接）の準備を進めている日本委員会は，４月19日に正式に組織委員会を立ち上げました．組織委員会は，濱野洋三委員長，藤井敏嗣副委員長，上田誠也委員，木村学委員，久城育夫委員，斎藤靖二委員，平朝彦委員，佃栄吉委員など総勢14名で構成されています．また同時に運営委員会も25名の委員で発足しました．今年度は２次選抜通過者４名を８月31日から９月７日のフィリピンでの第２回オリンピックに派遣します．また，2009年８月末から１週間（予定）台湾で開催予定の第３回オリンピックに向け，2008年10月１日～12月10日に参加者募集，12月21日（日）に国内第１次選抜（筆記），2009年３月29日（日）に国内第２次選抜（実技・面接）が予定されています．

国際地学オリンピックについては，http://www.jpgu.org/ieso/

第115年学術大会　教員向け見学旅行のご案内「地学教育の素材としての男鹿半島」

通常の見学旅行のCコース（本誌p.（17）参照）として教員向け巡検を企画いたしました．参加ご希望の方は，年会申込とあわせてお申し込み下さい．

行程（予定）：８：00秋田大学出発→寒風山→安田海岸→西黒沢海岸→入道崎→八望台と目潟→椿→脇本→17：00秋田大学解散
見学ポイント：寒風山や目潟など第四紀火山活動，第四紀層と貝化石を主とした化石群および段丘地形，海成第三紀層と第三紀火山活動，基盤岩
日程：**2008年９月20日（土）日帰り**【注意：大会初日です】
定員：20人
案内者：藤本幸雄*（秋田西高校）・林信太郎（秋田大学教育文化学部）・渡部晟（秋田県立博物館）・渡部　均（秋田中央高校）・栗山知士（能代男鹿工業高校）・小田嶋博（新屋高）・西村　隆（北陽小学校）・阿部雅彦（秋田高校）
費用：4000円
使用地形図：戸賀，船川（1/5万）
備考：バス使用．行程は状況で変更することがあります．昼食はご持参下さい．

日本地質学会第115年学術大会（秋田大会）小さなEarth Scientistのつどい～第６回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～参加校募集

標記発表会への参加校を募集しています．参加応募の詳細は別掲予告記事をご覧ください．地学，理科クラブの研究活動の発表，そのほか，この１年間に授業の中で行った活動の報告，児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動，研究内容であれば構いませんので，ぜひ応募してください．FAXで参加申し込みをする場合は以下の申込書をお使いください．メールの場合形式は問いませんので，同様の内容を記してお送りください．申し込みの際の参加生徒数，発表タイトル，発表概要は予定でも結構です．参加生徒には，参加証とささやかな参加賞を，また，優秀な発表には「優秀賞」が贈られます．

日本地質学会地学教育委員会（担当：三次）

申込締切　2008年７月22日（火）

日本地質学会地学教育委員会　行き　（Fax　03-5823-1156）

小さなEarth Scientistのつどい　～第６回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～ 参　加　申　込　書

学校名※ （クラブ名）	
学校長名	
担当教員名※	
研究者名（連記）	（内，発表会参加生徒数　　名）
タイトル※ （仮題でも可）	
発表概要 （可能であれば簡単に）	
担当者連絡先※	学校所在地　〒　　－ 電話　　，Fax メールアドレス
机の使用※	する　・　しない　（どちらかに○をつける）
備考・連絡事項	

※については必ず記入してください．

☆関東支部 案内

第２回研究発表会「関東地方の地質」および支部総会

関東支部では，６月８日（日）に関東地方およびその周辺地域の地質に関する研究発表会を開催いたします．今回の支部研究発表会では26件の最新の研究発表が予定されています．皆様，お誘い合わせの上，是非，本研究発表会にご参加ください．

なお当日は，研究発表会に引き続き2008年度支部総会も予定されております．あわせてご出席のほどよろしくお願い申し上げます．**支部会員の方で総会に欠席される方は委任状をお願いいたします．**

日時：**2008年６月８日（日）**12：30～17：20
会場：早稲田大学 国際会議場
JR山手線高田馬場駅から学バス（02）早大正門行き終点下車徒歩３分
東京メトロ東西線早稲田駅から徒歩５分
参加費：無料（ただし講演資料集は有料）．どなたでも参加できます．
本研究発表会は支部賛助企業による賛助金で運営されます．

委任状送付先：下記へ郵送またはFaxにてお送りください．
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局
Fax : 03-5823-1156

プログラム
12：30-12：35　開会挨拶
12：35-13：15
支部長講演：メガシティ東京の地質的課題
中山俊雄（関東支部長代理：東京都土木技術センター）
13：15-14：00　口頭発表
O1：2.5Ma丹沢火山の証拠－関東の含ざくろ石角閃石テフラの検討から
高木秀雄（早稲田大）・田村糸子（首都大）・樺山紀子（早稲田大）
O2：北西太平洋高緯度域における上部漸新統－下部中新統の放散虫化石層序
澤田大毅・本山　功（筑波大）
O3：反射法地震探査により解明された上総－下総層群の地下構造
浅尾一已（千葉県総務部消防地震防災課）
14：00-14：40　ポスター紹介
14：40-16：00　ポスターセッション
16：00-16：45　口頭発表
O4：珪藻分析による奥東京湾海進・海退過程の復元
石川　智（九州大）・鈴木毅彦（首都大）・中山俊雄（東京都土木技術センター）・鹿島　薫（九州大）
O5：荒川低地・妻沼低地における沖積層の層序と古環境の変遷
石原武志・須貝俊彦（東京大）・水野清秀（産業技術総合研究所）・八戸昭一（埼玉県環境科学国際センター）・松島紘子（東京大）・久保純子（早稲田大）
O6：群馬県八塩・埼玉県渡瀬地区に分布する浅層塩水（地下水）の地球化学的特性について
安原正也・稲村明彦（産業技術総合研究所）・鈴木裕一（立正大）
16：45-16：50　閉会挨拶
16：50-17：20　支部総会

ポスター発表
P1：関東山地北東部の地帯構造に平行および直交する断層群
金山健太郎（新潟大）
P2：吾国山変成岩類源岩の層相
甘利祐一・久田健一郎（筑波大）
P3：関東山地東部，名栗地域の地質
加藤　潔（駒沢大）
P4：石灰岩から知ることのできる沈み込む海山のテクトニクス：喜界海山と小笠原海台を例に
中澤　努・西村　昭（産業技術総合研究所）・井龍康文（名古屋大）・大岡　隆（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）
P5：棚倉断層周辺地域の中新世における火山活動と堆積環境の復元
成毛志乃（株式会社トーコー地質）・松原典孝・天野一男（茨城大）
P6：茨城県大子町北西部に分布する新第三系の堆積環境の復元
及川敦美・松原典孝・天野一男（茨城大）
P7：南房総に分布する千倉層群の鮮新世テフラ層序とその対比
田村糸子（首都大）・岡田　誠（茨城大）・正田浩司（所沢高）・山崎晴雄（首都大）
P8：関東平野西縁，加治丘陵に分布する仏子層下部の層相と堆積環境
久津間文隆（川越初雁高）・関東平野西縁丘陵団体研究グループ
P9：仏子層中に挟在する笹井ガラス質テフラ層（SSI）の記載と広域対比
正田浩司（所沢高）・関東平野西縁丘陵団体研究グループ
P10：下総層群清川層Ky4テフラの広域対比
中里裕臣（農研機構）・水野清秀（産業技術総合研究所）
P11：斑晶鉱物，特に斜長石斑晶の屈折率に基づく北関東テフラの同定
大石雅之（首都大）
P12：海進ラグの再堆積で形成された混合流デューン：茨城県南部中部更新統上岩橋層を例に
平社定夫（岩槻高）
P13：有孔虫化石から見た下総層群藪層の生層序と古環境
金子　稔（太田女子高）・石川博行（太田市立毛里田中）・野村正弘（駿河台大）
P14：ボーリングコアを用いた帯磁率，色の測定による地質区分・風化度判定
菊山浩喜・山本高司（川崎地質株式会社）
P15：埼玉県菖蒲町における350mボーリングコアの花粉化石群集
本郷美佐緒（産業技術総合研究所）
P16：埼玉県菖蒲町で掘削された350mコアの珪藻化石群集
納谷友規（産業技術総合研究所）
P17：関東平野中央部，加須低地の微地形発達
山口正秋（産業技術総合研究所）
P18：東京の古地理からみた地質防災への提案
細矢卓志・緒方信一（中央開発株式会社）
P19：2007年新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所敷地内の地表亀裂
金戸俊道・高尾　誠（東京電力株式会社）・二階堂　学・松浦一樹（株式会社ダイヤコンサルタント）
P20：柏崎刈羽原子力発電所敷地内の新第三系中の断層－2007年新潟県中越沖地震による影響－
高尾　誠・金戸俊道（東京電力株式会社）・蓑　由紀夫・石崎隆士（株式会社ダイヤコンサルタント）・家村克敏（株式会社阪神コンサルタンツ）・松浦一樹（株式会社ダイヤコンサルタント）

支部コーナー

＜委任状；2008年６月３日（火）必着＞

委任状送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局（FAX　03-5823-1156）

関東支部総会委任状

2008年６月８日（日）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を　　君（又は，議長）に委任します．

2008年　　月　　日

住　　所：

会員氏名：　　印

院生コーナー

「わくわくドキドキ　化石発掘 in 獅子島」参加報告

中谷大輔（M1）
鹿児島大学大学院理工学研究科地球環境科学専攻

2007年10月６-７日の２日間に，鹿児島県の獅子島で「わくわくドキドキ　化石発掘 in 獅子島」が開催された．この化石教室は今年で３年目をむかえ，新聞に参加募集の広告が掲載されると，その日のうちに申し込みが殺到し，すぐに定員を満たしてしまうほどの盛況ぶりである．そのため，鹿児島県内の自然史系イベントとしては，最も人気のあるイベントのうちの１つとなっている．今年は，県内の小学校で参加者を募集し，その後で新聞に募集広告を掲載した．去年にも増して多くの申し込みがあり，最終的には300名ほどの申し込みがあった．そして，その中から抽選で選ばれた200名ほどの親子が今回の化石教室に参加した．参加者の大半は，保護者同伴の小学生であったが，中学生や小学校教員の姿もみられた．また，鹿児島県民の化石への関心の高さを示すように，県内のテレビ局や新聞社など，報道関係者もいた．

この化石教室は長島町教育委員会が主催しており，十数名のスタッフによって運営されている．化石教室当日は，鹿児島大学教授の仲谷英夫教授を中心とした８人の講師が同行し，化石や発掘についての専門的な質問に対応した．私もその講師の一員として，この化石教室に参加させていただいた．ここでは，化石教室当日の様子を報告する．

開会式

当日の朝，受付を終えた参加者は，４つの班に分けられ，海上タクシーで獅子島の立石港に上陸した．慣れないクルージングで船酔いをした子供もいたようだが，ほとんどの子供たちは，化石の発掘にかなり意気込んだ様子で，元気に上陸してきた．人数の確認後，すぐに開会式が始まった．開会式では，開会宣言や講師の紹介，注意事項などが話された．子供たちは，はやる気持ちを抑えながら，真剣に話を聞いており，興奮している様子が伝わってきた．

化石発掘

開会式を終えた参加者は，各班に同行する２名の講師に連れられて，化石の発掘を行う海岸へと向かった．子供たちの多くは，初めての発掘に胸を膨らませ，しだいに小走りになっていた．この化石発掘は，海岸に散在する転石を中心に行われた．転石中には多くの印象化石が含まれており，参加者は，あまりの化石の多さに驚いていた．今年は，化石教室の数日前に，海岸近くの道路で土砂崩れが発生していた．海岸の転石と同様に，その土砂にも多量の印象化石が含まれていた．そのため，この土砂を安全な場所に移し，そちらでも化石の発掘を行った．４つの班がそれぞれの場

所を移動しながら，およそ１時間半，化石発掘に没頭した．６日の天候は快晴で，気温も30度を上回っていた．子供たちだけではなく，保護者として同伴した大人たちも，化石発掘にかなり熱中していたため，講師やスタッフは参加者の体調に気を配りながら見守った．講師の周りには，化石についての質問をするために，多くの子供たちが集まっていた．「これは化石ですか？」，「この化石の名前は何ですか？」といった質問が多く，ほとんどが，トリゴニアなどの貝の印象化石であった．しかし，中にはアンモナイトのデスモセラスや，ウニの化石を見つけている参加者もいた．初日はアンモナイトの発見が少なかったが，二日目は発見数も増え，かなり立派なアンモナイトを見つけている子供もいた．そのアンモナイト化石は，講師がうらやましく思ってしまうほどの化石で，１つのノジュールの中に5個体が含まれていた．発掘時間が終わりに近づいてくると，午後からのレプリカ作りのために，きれいな印象化石を探すように，講師から声がかけられた．それぞれが満足できるだけの化石をもち，昼食をとる場所まで移動した．リュックにあふれんばかりの化石を詰め込んだ子供たちには，この移動がかなりきついものとなっていた．しかし，それでも力いっぱい前に進んでいく姿は，たくましく思えた．

レプリカ作り

「もくもく館」と呼ばれる集会場で昼食をとり，そこでレプリカ作りを行った．参加者は最初に１つの部屋に集められ，高知大学の菊池さんからレプリカ作りの説明を聞いた．その後，各班に分かれてレプリカ作りを行った．予定では，歯科用の印象材を押し当てて作成するレプリカ作りと，石膏によるレプリカ作りが考えられていた．初日は２種類のレプリカ作りを行ったのだが，石膏が固まる時間が，予定よりも長くかかってしまい，閉会式までに間に合わない参加者がでてしまった．そのため，２日目は，石膏によるレプリカ作りを中止した．参加者は，それぞれに与えられた印象材を粘土のようにこねて，次々に天然の鋳型に押し当てていった．２日目の参加者は，１種類のみのレプリカ作りとなってしまったため，途中で飽きてしまうかもしれないと思われた．しかし，時間に若干の余裕ができたことで，同じ班で行動した友達と化石を交換し合い，複数のレプリカを作成していた．いつの間にか，班内のコミュニケーションも盛んになっていた．やはり，同じように汗をかきながら発掘を行ったため，自然と仲間意識が芽生えていたようである．このレプリカ作りの時間中に，化石の同定も行われた．講師からは，自分の発掘した化石への興味と愛着をもってもらうために，ラベル作りも説明された．

閉会式

レプリカ作りの後，参加者は再び１つの部屋に集められ，仲谷教授と谷本先生による恐竜や長頸竜についての講演が行われた．子供たちの恐竜や長頸竜に対する関心は高く，熱心に講演を聴いていた．講演終了後，そのまま閉会式に移った．閉会式では，仲谷教授から，今回の参加者への感謝の言葉が述べられ，これからも子供たちの好奇心を育てていってほしいと，同伴した保護者へ協力を求めた．また，長島町教育委員会の植田さんから，獅子島の海岸に流れ着くゴミについての話があり，今回の化石教室を通して，自然に対する関心を高めていってほしいと，子供たちへメッセージを送っていた．そして，今年も大盛況のまま閉会式を終えた．参加者は，多くの化石やレプリカを持ち，海上タクシーに乗って，それぞれの家へと帰っていった．

おわりに

私は，今回の「わくわくドキドキ　化石発掘 in 獅子島」という化石教室に参加することができ，大変貴重な体験をさせていただいた．私は，今回の化石教室をとおして，子供たちの化石に対する興味や関心の高さを痛切に感じることができた．私も小さな頃から化石や古代の生き物に魅せられたことで，地質学や古生物学と出会うことができた．今回の参加者を見ていると，幼い頃の自分を見ているようで，今後も子供達に夢やロマンを伝えていけるような研究を行っていきたいと思う．

また，私が同伴した班には，小学校で教員をされている方が家族で参加しており，このような化石発掘体験を修学旅行や遠足などの学校行事に組み込んでいきたいとおっしゃっていた．今回のような獅子島での化石発掘体験は，自然や地元に興味をもつ貴重な機会である．そして，このような地元の環境が教育現場でもいかされることにより，学問をこえたつながりを生み出せるのだと気づいた．

私は今回の化石教室の中で，古生物学や地質学ができることの大きさをあらためて実感することができた．

参加した講師：仲谷英夫（鹿児島大学・教授），谷本正浩（関西恐竜研究会），廣瀬浩司（御所浦白亜紀資料館），菊池直樹（高知大学・院博士課程），河野重範（島根大学・院博士課程），平田正礼（高知大学・院修士課程修了），中谷大輔（鹿児島大学・院修士課程），下郡祐之（高知大学・院修士課程）

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tsuji@sci.ehime-u.ac.jp	**辻　智大（愛媛大）**
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp	**河野重範（島根大）**
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp	**東郷徹宏（広島大）**
v.fonda@akane.waseda.jp	**本田豊也（早稲田大）**

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップ
一今，生きている火山」

新シリーズ登場！

A2版両面フルカラー印刷．
ハンディタイプで野外での観察に最適です．
教材としてもぜひご活用下さい．

小・中学生向け地質リーフレット新登場．
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

5月10日は地質の日

第１回の「地質の日」に前後して各地で開催された，様々なイベントをご紹介していきます．今回は，産総研地質調査総合センターです．地質の日の関連イベントは，http://www.gsj.jp/geologyday/もご参照ください．

産総研地質調査総合センター

「地質の日」記念イベント

産総研地質調査総合センターでは，５月10日の「地質の日」に前後して，各種の普及行事を開催しました．写真（右から）は，経済産業省本館ロビーでの地質図類パネル展示（４月14日～５月12日），つくばフェスティバル出展，産総研ロビーでのつくばの地質説明会（５月10日）の様子です．

撮影：地質調査総合センター　中澤　努，百目鬼洋平，川畑晶，吉川敏之

2008年の会費払込について

2008年４月～2009年３月の会費額は下記の通りです．未納の方には督促請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．督促請求は５月末頃の予定です．

基本的な請求額は下記①です。アイランドアークを冊子購読されている方は②の金額を加算します．

会員資格	①2008年４月～2009年３月分会費	②アイランドアーク購読料（購読者のみ請求）
正会員	12,000円	8,000円
〃　院生割引　※	8,000円	6,000円
準会員（学部学生）	5,000円	6,000円

※注：大学院に在籍し，定収のない方で所定の申請をされた方のみに適用します．2008年度分までの申請受付は既に終了しました．

１．次回自動引き落としについて（2008年およびそれ以前の会費が未入金の方対象）

次回は，６月23日（月）に引き落としの予定です．まだ会費を未入金の方で今後自動引き落としを希望される方は，「自動払込利用申込書」（ニュース誌巻末掲載）をご利用の上，**５月12（月）までにお申し込み下さい．**

２．自動引き落としの新規申込を受け付けています．登録口座変更の場合もあらためて申込書をお送り下さい．

学会としては，自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

2007年度　第11回理事会議事録

期　日：2008年４月５日（土）
10：00～12：30
場　所：北とぴあ　901会議室
出席者：木村会長，伊藤副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・Wallis・上砂・狩野・公文・斎藤・中山・久田・藤本・向山・宮下・矢島　各理事，新井田議長，保柳副議長，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，倉本
＊成立員数（12/17）に対し，出席者15名，委任状２名，欠席者０名で，理事会は成立．

○報告事項

１．運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）
総務委員会（委員長-上砂）
・日本活断層学会より，「能登半島地震１周年シンポジウム」（５月18日，七尾市）の後援依頼を承諾．
・産総研（申請者：小笠原正継氏ほか）より屋久島のポスター（地質標本館グラフィックスシリーズ９）に対し，日本地質学会推薦の名義要請があり承諾．
・文部科学省の若手科学者賞にたいし地質学会からの応募者は不採択となった．
・国立大学教育研究評価委員会専門委員に本会推薦者が２名選出された．氏名非公表．
・藤原科学財団より，藤原セミナー（自然科学の分野で国際的水準の高い基礎的なものをテーマにしたセミナーを開催：09年１月１日～10年12月31日，原則として苫小牧市にて開催するものを支援）の募集案内がありHP，Newsに掲載
・第21回太平洋学術会議（07/06/12-18開催，共催）の報告書が送付された．
・科学技術振興機構から平成20年度委託開発および革新的ベンチャー活用開発（独創的シーズ展開事業）の公募案内がありHP,Newsに掲載
会員関係（担当理事　中山）
１）入会者２名（正１）引地原野
（院１）石渡真己
２）退会者（１社　15名）
（賛１）㈱アサヒコンサル
（正10）小徳　基　森下信人　石井貴雄　杉本英也　堀松　崇　芳西　修　石森善二朗　小田美子　谷口　綾　増成寛文
（院４）大山広幸　嶋川未来子　川合達也　菅沼香織
（準１）稲垣貴之
３）３月末日会員数
賛助32，名誉74，正4,216（うち院265），準37，合計4,359　（前年同期比　－83）
４）除籍者　正124名　2004年からの滞納者
５）2008年度50年会員顕彰者予定者：1958年入会者（12名）
岡野武雄　笠井勝美　梶間和彦　菊地隆男　口野道男　佐田公好　高野武男　中島秀雄　根本　守　長谷川美行　府川宗雄　和田温之

地質学関連学会連合（担当理事-天野）
地理関連学会連合
・第10回総会（3/28）開催され天野理事が出席し，その報告をした．
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合法人化に関する公開討論会および第７回（拡大）評議員会に伊藤副会長，橋辺事務局長が参加．
・国際地学オリンピック日本委員会準備委員会（久田）
４月に国際地学オリンピック日本委員会が正式に発足すること，今年度予算のJSTへの申請は不採択であったことなどが報告された．
学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）
新組織になってからの３年の任期が今年で終わる．地球科学の会員では，平，岡部の両氏が留任．
会計関係（担当理事-向山）
・07年度決算案，08年度予算案について説明．
広報委員会（担当理事-倉本）
ニュース誌編集小委員会（担当理事-倉本）
・地質学雑誌表紙デザイン選考委員会等の設置について，倉本理事欠席のため狩野編集長が代わって報告した．
選考委員構成：倉本（広報担当理事，幹事），木村会長（委員長），伊藤・佃両副会長，宮下・狩野・久田（地質学雑誌編集担当理事），担当理事長谷部（編集委員），坂口・大友（インターネット委員会），斎藤前会長，井龍・前川（IA編集長），白尾・針金（会員）以上15名
審査スケジュール：４月下旬一次審査，二次審査を経て５月17日理事会にて最終決定，総会で発表．

２．学術研究部会（部会長-公文，）
行事委員会（斎藤委員長）
・秋田大会について
テーマは「地球の鼓動とその恵み―地質学から迫る人と地球の未来」
・秋田大会市民講演会の科研費申請は不採択となった．
・韓国地質学会の会長招待を検討する．
国際交流委員会（公文　国際特任理事）
・日－タイ，日－モンゴル，日－フィリピン小委員会の発足当について報告．

３．編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
編集状況について説明
企画部会報告（宮下）
Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
１．2008年編集状況
2008年17巻の新契約ページ数は620p.予定（07前借り30ｐの件は要確認）
１号　Pictorial１編，一般10編，182p．定期より１ヶ月早く2月下旬発行済み．
２号　Pictorial１編，一般６編，103p.見込み．WEB公開済み，発行５月予定．
３号　受理原稿２編．100pを予定し特集掲載の４号にページ数を温存する．
２．特集
板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis
６編受付済み，うち受理２編，うち１編はWEB公開済み．掲載号は未定
久田特集：GE久田・Yumul（IGCP 516）
全25編受付済み，うち14編受理．17-４号・18-１号分割掲載を予定．
HKT（ヒマラヤ）特集：GEWallis・Aitchison
全８編受付済み，うち１編受理．掲載は18-3号を予定．
08年集会の特集の打診も来ている．
寺林特集：GE寺林
６編予定
Ernst特集打診中
３．オンライン投稿
08年３ヶ月で新規投稿11編（３ヶ月間で10編が目安なので順調）．
オンライン化後２年間の正味のReject率は33/136編＝24%．最近Rejectが多い．

Island arc連絡調整委員会（委員長-会田，担当理事-Wallis）
・2008年度のオンライン購読についてW-B社との間での価格面での交渉状況が報告された．
名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）
2008年度名誉会員候補者として，次の６名の会員を選出した．
増田孝一郎会員　石田志朗会員　杉崎隆一会員　加藤　誠会員　沖村雄二会員　柴田　賢会員

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）
・学会利益相反防止規則について検討し，利益相反防止規則（案）を理事会に答申，自己申請書案も作成した．答申については理事会として検討を望む．
・除名申請の検討についての報告．

○審議事項

1．来年度事業方針文書の最終確認を行い決定した．

2．07年決算案，08年度予算案については，最終的には多少の修正があることも含め，承認した．

3．秋田大会について

鉱物科学会との同時開催によるさまざまなことについて検討，参加登録，予稿集，参加費等について，さらに準備委員会，行事委員会，会計等で十分に検討することとした．

4．学会就業規則の改正案答申の確認

学会就業規則整備委員会からの答申案を確認し，概ね了承し，改正事項は4月1日に遡って施行する．

5．評議員会の議事確認

議事運営について確認した

6．その他

1）女性地球科学者の未来を考える委員会より，委員会名称の変更ならびに規約改正について再提出があり，評議事項とすることとした．

2007年度　第4回 定例評議員会議事録

2008年5月7日

日本地質学会
評議員会議長　新井田清信
副議長　保柳康一

日時：2008年4月5日（土）13：30―17：45
場所：北とぴあ901会議室（東京都北区王子）
出席者：木村　学会長　伊藤谷生副会長
（評議員26名）＜留任＞　会田信行　足立勝治　安藤寿男　石垣　忍　石渡　明　井龍康文　岡　孝雄　小山内康人　新井田清信　針金由美子　松岡　篤　松田博貴　渡辺真人
＜新任＞　磯崎行雄　卜部厚志　永広昌之　大友幸子　川端清司　北里　洋　沢田順弘　高木秀雄　新妻信明　保柳康一　堀　利栄　松本俊幸　脇田浩二
（理事13名）渡部芳夫　天野一男　上砂正一　狩野謙一　公文富士夫　斎藤　眞　Simon Wallis　中山俊雄　久田健一郎　向山　栄　藤本光一郎　宮下純夫　矢島道子
（事務局）橋辺菊恵
欠席者　評議員（委任状13名）：浅野俊雄　阿部国広　荒戸裕之　加藤　進　紺谷吉弘　酒井治孝　柴　正博　徐　垣　中川光弘　丸山茂徳　三宅康幸　山路　敦　山根　誠
欠席者　評議員（委任状なし1名）：井内美郎
理事（2名）：佃　栄吉（副会長）倉本真一
＊　成立員数（21/40）に対し，出席26名，委任状13名で，評議員会は成立．
＊　はじめに，松岡　篤，石渡　明　両評議員を書記に選出．議事に先だち，木村会長のあいさつがあった．会長から事務局職員の橋辺菊恵氏に対し40年勤続の表彰が行われ，記念品が授与された．

報告事項

Ⅰ　理事会報告

1　運営財政部会

1）総務委員会

庶務関係（担当理事：上砂）

・富士山学会よりの富士山科学看板設置調整委員会の専門委員1名の推薦については，高橋正樹会員の承諾が得られ，推薦した．

・日本ジオパーク連絡協議会（会長：米田徹　糸魚川市長）が設立された（12月26日）．学会宛に「ジオパーク推進に関わる要請書」が寄せられた．

・科学教育研究協議会より第55回全国研究大会（石川県加賀市，8月2日－4日）の後援依頼があり，例年通り承諾した．

・日本粘土学会より第52回粘土科学討論会（沖縄県那覇市，9月3日－5日）の共催依頼があり，承諾した．

・日本活断層学会より，「能登半島地震1周年シンポジウム」（5月18日，七尾市）の後援依頼があり，承諾した．

・産総研（申請者：小笠原正継氏ほか）より屋久島のポスター（地質標本館グラフィックスシリーズ9）に対し，日本地質学会推薦の名義要請があり，承諾した．

・東レ科学技術研究助成に，地質学会から応募した東大の加藤泰浩会員の「同位体を指標とする固体地球の応答の解明」が採択された．文部科学省の若手科学者賞に対し，地質学会からの応募者は採択されなかった．

技術者継続教育（CPD）委員会（委員長・担当理事：公文）

・2月28日に第2回「土質・地質技術者生涯学習協議会」が開催．当協議会として建設系のCPD協議会に加わり，共通のCPD単位が認定される方向で調整中．ジオスクーリングネットの改良・強化が進行中．もう1年は正規の分担金負担を参加団体が負担する．（協）関西地盤環境研究センターからの新規加入を認めた．

地質科学関連学協会連合

地理学関連学会連合

・3月28日に地理学連合総会が開催．

会員関係（担当理事：中山）

・前回から今回までの入退会ほか会員の動静

(1) 入会

正会員（3名）：Rehman Hafiz Ur　渡辺敬三　平塚延幸

院生割引（1名）：横山正敬

準会員（5名）：泉　健太　三谷明日華　津田龍一　田中麻衣　Wu　Lan

(2) 退会者（賛助2社，正79，院8，準2）

(3) 逝去（正2名）：福田正光（2007/12/8）長田幸久（2007/12/7）

(4) 除籍者（正124名）：2004年からの滞納者を3月末で退会手続きをとる．

(5) 会員の動静（2008年3月31日現在）

	賛助会員	名誉会員	正会員(内院生割引)	学生会員	合計
2008.3.31	32	74	4216(265)	37	4359
2007.11.30	34	74	4428(270)	39	4575
前回比	－2	0	－212(－5)	－2	－216
昨年比	－2	0	－73(－17)	－8	－83

・2008年度50年会員顕彰者：1958年入会者（12名）

岡野武雄　笠井勝美　梶間和彦　菊地隆男　口野道男　佐田公好　高野武男　中島秀雄　根本　守　長谷川美行　府川宗雄　和田温之

会計関係（会計委員長：佐々木和彦，担当理事：向山）

・2007年度収支決算案および2008年度収支予算案

向山理事より，収入は減ったが支出も減ったので結果的に黒字になっている旨説明があった．

2）広報委員会（担当理事：倉本）

・地質学雑誌表紙デザイン選考委員会を設置し，公募作品を厳正に審査する．

2　学術研究部会

1）行事委員会（担当理事：齋藤）

・2009年開催地：西日本支部岡山地区　会場：岡山理科大学

会期は岡山理科大学の都合により2009年9月4日～6日となった．

・秋田大会について

シンポジウム1件，セッション4件を鉱物科学会と共催にする．参加費については調整が必要．

2）専門部会連絡委員会（担当理事：天野）

会員のファイルに専門部会情報を登録できるようになったので，改めて．専門部会の登録を進め，メーリングリストの作成をおこなう．登録の呼びかけ，状況説明をNews誌に流す．

3）国際交流委員会（担当理事：公文）

・日－タイ小委員会の発足（委員：久田健一郎・上野勝美・仲谷英夫・曽根正敏・脇田浩二）

・日－モンゴル小委員会（委員：東田和弘・坂巻幸雄・大藤　茂・高橋裕平）

・日－フィリピン小委員会（委員：松岡篤・尾上哲治・渡部直喜）

4）研究委員会

(1) 南極地質研究委員会（委員長：廣井美邦）

・資料にて報告あり．

3　編集出版部会

1）地質学雑誌編集委員会（担当理事，編集委員長：狩野，副委員長：久田，企画部会担当：宮下）

・雑誌編集状況（4月4日現在）．

114-3月号：論説3・短報1・口絵1（48ページ発行済）

114-4月号：教育特集号（総説5），一般論文（論説2）（校正中）

2008年度投稿論文数29編［論説18（和文16　欧文2），総説8（和文8）短報1，討論1　報告1］口絵1

投稿数昨年比　＋4　査読中53編　受理済み12編（うち　報告1，ノート2　討論1　口絵を含む）

・地質学雑誌表紙新デザイン募集について，3/31に募集を締め切った．計27件の応募があり，審査委員会を立ち上げ5/25総会までに最終決定の予定．

企画部会（宮下）

・特集号：下記4件の特集号が査読および投稿準備中

「最終間氷期の環境変動－日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して－」査読中

「プレート沈み込み帯と地震」（世話人：廣野哲朗ほか）査読中

「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」（世話人：高木秀雄ほか）投稿準備中

「モデル実験で探る地形・地層形成過程のダイナミクス」（世話人：横川美和ほか）投稿準備中

2）企画出版委員会（担当理事：藤本）

1．リーフレットとして，①国立公園地質リーフレット　たんけんシリーズ2「屋久島」，②地層処分に関するもの（地質環境長期安定性研究委員会企画提案）が進行中．

3）Island Arc連絡調整委員会（委員長：会田信行）

科学研究費補助金が3月で終了したが，出版社との交渉により，その後1年間は会員の無料ダウンロードが継続できることになった．更にその後はサービス低下の可能性あり．

4）Island Arc編集委員会（編集事務局長：竹内圭史・角替敏昭，担当理事：WALLIS）

原稿は十分な数が投稿されており，ほぼ予定通りの頁数で順調に出版されている．

年間頁数を増加させることで出版社と合意しており，年6号化も視野に入れている．

4　普及教育事業部会（担当理事：矢島）

1）地学教育委員会（委員長：阿部国広）

①　地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（委員：阿部国広）

・資料にて報告あり．

2）生涯教育委員会（委員長：柴　正博，担当理事：藤本）

・「地質の日」関連事業についての博物館等での協力．

・ジオサイトの博物館の登録に対しての協力．

・地質学会のネットページむけ資料としての各博物館での観察会などイベント予定の収集．

3）地質基準委員会（委員長：新妻信明）

・「第二次地質基準説明書」は，各地質体の地質体形成過程が力学特性とどのように関係しているかについても説明を付ける方針で原稿作成・編集を行っている．ダム建設時に定常的に実施されている現地における剪断応力試験結果を，現地における地質体に対応させて整理して検討を加える準備を行っている．

・「地質学用語辞典」については掲載項目の最終選定を行い記述方式を検討中．

・「海の地質基準」については最終編集段階にあり，入稿準備中である．

5　その他（理事会関係の委員会等の報告）

1）ジオパーク設立推進委員会（委員長：佃　栄吉，委員：渡辺真人）

・ジオパーク支援委員会の設立にあたりメンバーを決定した．委員会は5月に発足．天野一男（委員長），田近　淳，竹谷陽二郎，立石雅昭，三田村宗樹，高橋治郎，大木公彦，高木秀雄（日本ジオパーク委員会委員），矢島道子，渡辺真人

2）学会就業規則整備委員会（委員長：立石雅昭，代理報告：伊藤）

・「就業規則改正案」について答申案を策定し理事会に提出した．

3）就職支援ワーキンググループ（委員長：伊藤）

理事会のもとのWGとして，向山理事，矢島理事，伊藤に，若手から成瀬元（千葉大），小松原純子（産総研）が加わって3月11日に第1回目の会合．就職をめぐる現状についての意見交換を行ったあと，以下の確認を行った．

1．秋田大会で第2回目の企業説明会を行う（向山理事が準備を開始する）．

2．第2回目のWGを5月ごろ開催する．第2回目に向けて次の作業を行う．

1）企業の若手からWGに入って貰う．

2）地質学関係の職域を拡大するためにも，地質学をバックに，あるいは地質学に興味をもって多方面で活躍している人々をニュース誌等で紹介するシリーズを組む．

3）若手の就職の現状について，研究職，技術職，社会教育を含む教育職，行政職など職種別にデータを収集し，分析する作業を開始する．

Ⅱ　各種委員会報告（評議員会関係）

1．各賞選考委員会（委員長：安藤寿男）

・12/25締め切りの各賞に関して，会員および推薦委員会から推薦されてきた日本地質学会賞，柵山賞の候補について，選考検討委員会を設置し選考を諮問した．同委員会委員長は互選により狩野謙一氏となった．

委員長：狩野謙一，委員：木村　学・齊藤靖二・嶋本利彦・平　朝彦，磯崎行雄，渡部芳夫，石渡　明，Simon WALLIS，小川勇二郎，巽　好幸，伊藤谷生，宮下純夫

・Island Arc賞について，同編集委員会に選考を諮問した（石渡　明，Simon WALLIS委員長）．

・論文3賞（論文賞，小藤賞，研究奨励賞）授賞候補者の選考結果報告

特に，研究奨励賞の結果報告につき議論があった．

2．名誉会員推薦委員会（担当理事　委員長：伊藤副会長）

・2008年度名誉会員候補者として，次の6名の会員を選出した．

増田孝一郎会員　石田志朗会員　杉崎隆一会員　加藤　誠会員　沖村雄二会員　柴田　賢会員

3．女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長：堀　利栄）

・名称変更ならびに規約改正について

4．法人化実行委員会（委員長：齊藤靖二）

公益法人のガイドライン案が出たことなどが資料にて報告された．

Ⅲ　選挙管理委員会（委員長：加藤　潔）選挙結果は既にニュース誌に報告済み．

Ⅳ　その他

1．IYPE日本（佃　副会長）

・資料にて報告あり．

2．地質の日事業推進委員会（藤本委員）

・資料にて報告あり．

3．地球惑星科学連合（木村会長）

・3月14日，連合の法人化に関する公開討論会ならびに第7回（拡大）評議員会が開催された．

・連合は2010年にAOGSとのジョイント開催を計画中である．

・連合地学オリンピック小委員会（久田）

1）本年8月のフィリッピン大会のため日本全国から358名の中学生・高校生が第1次選抜試験に参加した．第2次選抜試験は5月31日．

2）科学技術振興機構（JST）による，今年度第2回フィリピン大会派遣費用支援

は不採択となった．来年度第３回台湾大会の国内選抜等（本年12月開始予定）に関わる費用支援は採択された．

３）４月19日に国際地学オリンピック日本委員会の組織委員会，運営委員会が正式に発足する．

４）生物と化学は日本開催が決定．

４．学術会議関係（木村会長）

再編後３年になるので会員の改選があり，地球科学関係の６名の会員のうち，２名（平朝彦・岡部篤行）が留任，４名（入倉孝次郎・河野長・永原裕子・碓井照子）が改選．

Ⅴ　理事会審議事項（主なもの）報告

１．地質学雑誌の表紙リニューアルにについて

・３月31日〆切で表紙デザインを一般公募し，採用作品には賞金50,000円を与える．

２．男女共同参画学協会連絡委員会（＝地球惑星連合）より，学術振興会事業における女性審査委員候補者推薦依頼があり，女性地球科学者の未来を考える委員会の協力を得て，田崎和江，堀　利栄の２会員を推薦した．

３．就職支援活動に関する検討を行うWGを立ち上げた．

WGメンバー：向山，矢島，伊藤各理事会，ほかに小松原（産総研），成瀬（千葉大）

４．法人登録の準備にかかる実務体制について

法人登録の準備にかかる実務体制委員会を設置することとし，これによって法人化実行委員会は発展的に解消することとする．

・委員会は４月以降発足予定

渡部・天野（正・副常務理事）　上砂（総務担当理事）　向山（会計担当理事）藤本光一郎（理事）坂口有人　佐瀬和義（要請中）

オブザーバー：篠原顧問会計士　高木顧問弁護士　山本司法書士（監事）

５．国際地学オリンピックの支援について

学会としては普及事業の一環と位置づけ，会計的に検討し，07年度予算で寄付を，08年度以降は協賛することとした.年会での中高生発表会等と合わせて,地質学会では来年度事業で両者を普及事業の柱として実施することを再確認した.

６．タイ地質学会長から会長に年会への招待があり，久田理事が代理で出席した．訪問に際しオリジナル楯を作成し,交流記念に贈呈した.

７．日本記念日協会に５月10日の「地質の日」の登録申請（申請料52,500円）を行い受理された．

８．選挙執行・管理体制の制度的整備について

平成19年度選挙管理委員会からの意見書が紹介され，検討した．

９．各賞選考への理事会推薦委員会の本年度運用について

本年度の理事会推薦委員会は，立ち上げの遅れから，推薦委員への事前の説明や，推薦母体である理事会としての推薦文書の確認当の手続きに不手際があり，委員会や委員に迷惑をおかけすることとなった．実績としては推薦が得られたので，今後も推薦委員会のご協力を得ることとし，経緯と今後の対応について検討し，各賞選考委員会ならびに各賞検討委員会，当該推薦委員に報告した．

10．学会活動における政治団体・組織との関係について

学会の広報等で，特定の政治団体・組織に係るお知らせ等をどのように扱うか，一定のガイドラインが必要と判断し，法務委員会に検討を依頼した．

11．地層処分に関するリーフレットの企画承認について

地質環境の長期安定性研究委員会の吉田委員長並びに高橋委員からの説明を受け，一般市民を対象とした日本の地質に関する客観的データを分かりやすく紹介するものを作成する，また，理事会で進行を見守ることを条件に，企画を進めることを承認した．

12．来年度事業計画と，対応した予算計画の最終案確定した．

13．除名申し立てにかかる学会手続きの策定について

法務委員会からの報告を受け，法務委員会には明文化された規定の範囲では，対応が不可能の部分がある．幅をもった判断をしていく必要があるということを要望した．

14．学会就業規則整備委員会（委員長　立石雅昭）に就業規則の改正を諮問し，答申を受けた．

15．総会議案を確定し，３月号News誌に告示を掲載した．

評議事項

１．2007年度決算案，2008年度事業計画および予算案についてはこれを承認した．

２．各賞選考結果について

提案のあった各賞候補を一括承認した．

審査対象となり落選した論文について，審査過程で引用の不備が指摘されたことが安藤各賞選考委員長から報告された．この件については，地質学雑誌の編集委員会に取り扱いを委ねて地質学会として対応することになった．各賞の推薦の仕組み，推薦期間などの今後の改善について，各賞選考委員会から理事会に申し送ることとなった．

１）日本地質学会賞（１件）

榎並正樹（名古屋大学大学院環境学研究科）

対象研究テーマ：高圧・超高圧変成岩の研究

２）日本地質学会柵山雅則賞（１件）

片山郁夫（広島大学地球惑星システム学専攻）

対象研究テーマ：沈み込み帯のダイナミクスと水の役割

３）日本地質学会論文賞（３件）

・竹内　誠・河合政岐・野田　篤・杉本憲彦・横田秀晴・小嶋　智・大野研也・丹羽正和・大場　穂高，2004，飛騨外縁帯白馬岳地域のペルム系白馬岳層の層序および蛇紋岩との関係．地質学雑誌，第110巻，第11号，p.715-730.

・清川昌一，2006，ベリース国に分布する白亜紀・第三紀境界周辺層，アルビオン層：チチュル　ブクレータに近接したイジェクタとその堆積層．地質学雑誌，第112巻，第12号，p.730-748.

・Aoki, K., Iizuka, T., Hirata, T., Maruyama, S. and Terabayashi, M., 2007, Tectonic boundary between the Sanbagawa belt and the Shimanto belt in central Shikoku, Japan. 地質学雑誌，第113巻，第５号，p.171-183.

４）日本地質学会小藤賞

斎藤　眞・川上俊介・小笠原正継，2007，始新世放散虫化石の発見に基づく屋

久島の四万十帯付加体の帰属．地質学雑誌，第113巻，第６号，p.266-269.

５）日本地質学会研究奨励賞（３件）

・丹羽正和（日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門）

対象論文：丹羽正和，2006，海洋性岩石のスラブで特徴付けられる付加体の岩相と変形構造～岐阜県高山地域の美濃帯小八賀川コンプレックスを例として～．地質学雑誌，第112巻，第６号，p.371-389.

・長谷川　健（北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻）

対象論文：長谷川　健・中川光弘，2007，北海道東部，阿寒カルデラ周辺の前-中期更新世火砕堆積物の層序．地質学雑誌，第113巻，第２号，p.53-72.

・福成徹三（名古屋大学）

対象論文：Fukunari, T. and Wallis, S, 2007, Structural evidence for large-scale top-to-the-north normal shear displacement along the MTL in Southwest Japan. Island Arc, vol.16, no.2, p.243-261.

６）日本地質学会 Island Arc賞

Chang Whan Oh, Sung Won Kim, In-Chang Ryu, Toshinori Okada, Hironobu Hyodo and Tetsumaru Itaya, 2004, Tectono-metamorphic evolution of the Okcheon Metamorphic Belt, South Korea: Tectonic implications in East Asia. Island Arc, 13, 387-402.

３．名誉会員候補者の推薦について

推薦委員会より提案された６名の会員を，名誉会員候補として総会に推挙することを承認した（Ⅱ-2　名誉会員推薦委員会報告参照）．

４．除名申し立てにかかる学会手続きの策定について

除名の総会に提案するまでの手続きの詳細が会則には示されていないことから，法務委員会として，現在検討中であることが報告さ

れた．
5．選挙手続きの改善について
理事会から改善案が示され，今後の学会体制にもよるが，改善できることから順次対応したとの説明があり，了承した．
6．その他
「女性地球科学者の未来を考える委員会」の名称変更と規約の改正について
上記委員会の名称を今後は「男女共同参画委員会」とすること，それに伴う委員会規約の一部改正を承認した．

CALENDAR

2008.5～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2008年

5月　May

★日本地質学会第115年代議員総会
5月25日（日）17：30～19：00
会場：幕張メッセ国際会議場303会議室
http://www.geosociety.jp/outline/content0017.html

○日本地球惑星科学連合2008年大会
5月25日（日）～30日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://ww.jpgu.org

6月　June

○地球地図フォーラム2008
6月5日（木）～7日（土）
会場：国際連合大学
http://www.gmforum2008.org/top.html

★関東支部　第2回研究発表会「関東地方の地質」・支部総会
6月8日（日）10：00～17：00
会場：早稲田大学国際会議場第1会議室
http://kanto.geosociety.jp/

○Geoinforum2008　第19回日本情報地質学会総会・講演会
6月12日（木）～13日（金）
場所：北海道大学百年記念会館大会議室
http://www.jsgi.org/

○地質学史懇話会
6月22日（日）13：30～17：00
場所：北とぴあ9階902号室（JR京浜東北線王子駅下車3分）
上杉　陽：富士山宝永噴火
沓掛俊夫：弘法大師の地質観、自然観

★中部支部年会
6月28日（土）～29日（日）
28日：総会・シンポジウム「歪み集中帯とフォッサマグナ」
29日：地質見学（未定）
会場：新潟大学五十嵐キャンパス
http://www.geosociety.jp

7月　July

○日本古生物学会2008年年会・総会
7月4日（金）～6日（日）
場所：東北大学（宮城県仙台市）
シンポジウム：環境指標としての後期新生代微古生物学と古海洋学の進展（4日）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj5

○堆積学スクールOTB2008
「タービダイトと海底扇状地のダイナミクス」
7月19日（土）～21日（月）（集合は18日夜）
場所：北海道立厚岸少年自然の家
http://sediment.jp/

8月　August

○Internatinal Geological Congress OSLO 2008（The 33rd IGC）
8月6日（水）～14日（木）
http://www.33igc.org/

○第2回国際地学オリンピック
8月31日（日）～9月7日（日）
場所：フィリピン共和国
http://www.jpgu.org/ieso/

○6th International Conference on Asian Marine Geology
－Asian Waters explored by advanced research of 21st Century－
8月29日（金）～9月1日（月）
場所：高知市
http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/

9月　September

○第12回岩の力学国内シンポジウム
9月2日（火）～4日（木）
会場：山口大学工学部（山口県宇部市）
講演原稿提出期限：5月16日（金）
http://www.mmij-kyushu.com/JROCK2008/

○第52回粘土科学討論会
9月月3日（水）～5日（金）
会場：沖縄ポートホテル
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/index.html

○土木学会第63回年次学術講演会
9月10日（水）～12日（金）
場所：東北大学川内北キャンパス
http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h20/index.html

○The 11th International Conference on Thermochronometry（FT2008）
9月15日（火）～19日（金）
場所：アメリカ合衆国アラスカ州　ホテルキャプテンクック
http://www.union.edu/ft2008/index.html

○2008年度日本地球化学会年会
共催：日本地質学会ほか
9月17日（水）～19日（金）
会場：東京大学教養学部
http://www.geochem.jp/meeting/

★日本地質学会第115年学術大会
9月20日（土）～22日（月）
場所：秋田大学
http://www.geosociety.jp

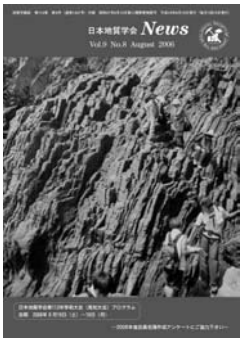
12月　December

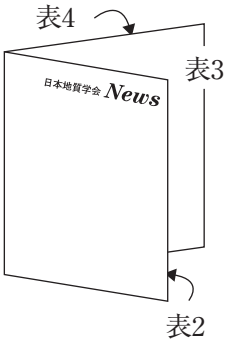
○IUMRSアジア国際会議 2008
12月9日（火）～13日（土）
場所：名古屋市国際会議場（名古屋市熱田区西熱田町1番1号）
主催：日本MRS（Materials Research Society of Japan（MRS-J））
http://www.iumrs-ica2008.jp/index.html

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．





＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表 4	60,000	＋10,000	＋10,000
表 2	50,000	＋10,000	－
表 3	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

研究室のミニ工場

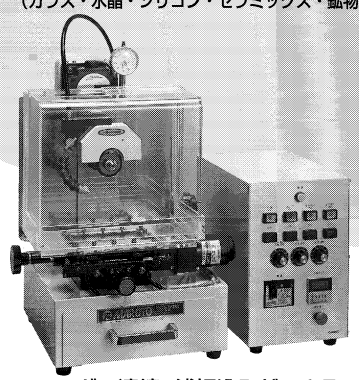
マルトーの
ラボ・ファクトリープラン3点セット

小型　精密　操作簡単　低価格

（ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工）

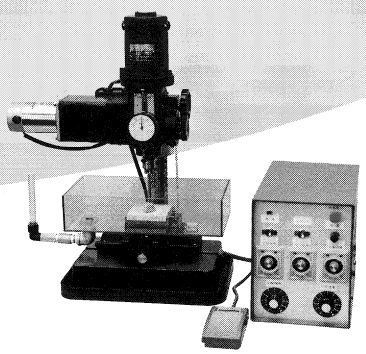
小さな機械だが役に立つ

磨く　切る　抜く



カッティング　連続・浅切込みができる
ステップカッター〔MC-170〕
●試料へのダメージが少ない
●最小切込み量 10μm／pass
●最大加工能力 H25×L40mm
●設置面積 W550×L450mm
●本体価格 178万円～

ポリッシング　精密鏡面研磨機
ドクターラップ〔ML-180〕
●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
●アクセサリー豊富
●研磨試料サイズ φ1～φ100mm
●設置面積 W400×L400mm
●本体価格 45万円～



コアリング　微小径コア抜き取り機
ミニピッカー〔MG-5N〕
●主軸回転数 4000～12000r／min
●加工能力 φ1～φ6mm×30mm
●設置面積 W600×L400mm
●本体価格 125万円～

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

http://www.maruto.com

株式会社マルトー
本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 ☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル ☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

5月10日は
地質の日

地質の日の由来

5月10日は、明治9年(1876)、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。
また、明治11年(1878)のこの日は、地質の調査を扱う組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあります。

地質の日とは

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などでできています。これらの性質のことを「地質」と呼びます。地質とは、まさに大地の性質＝Quality of Earth のことです。
地質はエネルギーやさまざまな素材の基となる鉱産資源、温泉や美しい景観など私たちに豊かな恵みを与えてくれます。また、構造物の建設、地下空間利用や、廃棄物処理などの環境面でも地質は重要な役割を果たします。しかし一方で、地質は、地震、火山噴火、斜面崩壊などによって大きな災害をもたらすこともあります。

このように、「地質」は、人間社会と深く関わっていますが、「地質」の重要性や、地質に携わる人々の活動は、一般には、ほとんど知られていません。
一般の人々が、地質をより身近に感じ、理解できることによって、安全・安心で豊かな暮らしが確保できるとともに、地球や環境を大切にすることにもつながります。
地質の日は、この地質への理解を推進する日として、制定されました。さまざまなイベントや日常の活動を通じて、地質をより身近に感じて下さい。

地質の日は、2007年3月13日に、地質関係の組織・学会が発起人[*1] となって定められました。今後「地質の日」事業推進委員会[*2] が「地質の日」を広めていきます。

*1　発起人：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産総研地質調査総合センター、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO) 地質情報整備・活用機構(順不同)
*2　事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、(独)産総研地質調査総合センター、日本科学未来館、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(社)東京地学協会、(NPO) 地質情報整備・活用機構(順不同)(2007年8月末現在)

地質の日記念行事

2008年5月に、全国の地質に関係する人たちと第1回の記念行事（一般向け）を行います。みなさまのご参加をお待ちしています。

planetearth Earth Sciences for Society 2007-2009

地質の日事業推進委員会事務局：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
TEL: 029-861-9122、FAX: 029-861-3672　WEB: http://www.gsj.jp/geologyday/
ここに用いた地質図は100万分の1日本地質図第3版と（財）日本水路協会海洋情報研究センターが作成した標高データJTOPO30を使用して作成しました。

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp